

官報號外

昭和六年三月二十四日

帝國議會 第五十九回 貴族院議事速記錄第三十七號

第五十九回

三

貴族院議事

速記錄第三十七號

請願委員會特別報告第七號

男爵
内田
芳郎

小松謙次郎
伊澤多喜男

入管者職業保障法案
軍事救護法中改正法律案
同日衆議院ヨリ左ノ政府提
小作法案

出案ヲ受領セリ

農林省對スル國策樹石貴族院規則第六十九
昭和六年三月二十日

立ニ關スル建議案
係ニ依テ提出候

明治二十五年三月二十一日
第三種郵便物記可

男爵伊江 朝助 男爵闘 義壽
男爵大寺 純藏 高橋 琢也

竹越與三郎 宮田 光雄

倉知 鐵吉 安達 綱之

湯川 寛吉 八田 嘉明

中川小十郎 木村清四郎

大津淳一郎 本山彦一

稻畑勝太郎 林平四郎

中村圓一郎 坂田貞

平田吉胤

齋藤喜十郎 畜藤善八

小塙八郎 下出民義

澤山精八郎 上郎

奥田榮之進 太田清藏

高橋源次郎 山崎龜吉

吉田羊治郎 三木健次郎

松本勝太郎 田中一馬

小林暢 鳴海周次郎

森田福市

貴族院議長公爵德川家達殿

農村ニ對スル國策樹立ニ關スル建議

方今農村ノ疲弊其ノ極ニ達シ之ヲ現狀ニ

委セムカ前途沟ニ憂慮ニ堪ヘサルモノア

リ依テ政府ハ速ニ農村ニ對スル根本的國

策ヲ樹立シ其ノ頽廢ヲ防止シ以テ國礎ヲ

鞏固ナラシメムコトヲ望ム

右建議ス

(湯地幸平君演壇ニ登ル)

○湯地幸平君演壇ニ登ル

私ハ本建議案提出ノ理由ヲ

○湯地幸平君演壇ニ登ル

○湯地幸平君演壇

ヤ習慣ガ違フカラ一緒ニナレナイ、アノ町
村トハ氣ガ合ハヌカラ一緒ニナレメト云フ
コトデ、餘程は困難ナコトデアリマスル
ガ、斯様ナコトハ平常ノ時ニ言フ話デ、今
日ノ如ク農村ガ疲弊シ、殆ド破滅ニ近ヅカ
ムトスル時ニハ、サウ云フ贅澤ナコトハ言フ
テ居レナイコト思フノデアリマス、其次
ニ政府ニ御考ヲ願ヒタイノハ、政府ハ時ニ
法律命令ヲ發布セラレル、サウシテ自治體ノ
ニ國家ノ事務ヲ委託サレル、而シテ金ハ一
文モ出サレナイ、ソレダケ町村ノ負擔ガ重
クナルノデアリマス、此點モ自治體ノ
單位ヲ鞏固ニセラレル御考ヘガアリマスル
ナラバ、法律命令ヲ發セラレル毎ニ、町村
ノ負擔ノコトモ御考置キヲ願ヒタイ、又
農村ノ經濟ニ付テハ是ハ一番困難ナ問題デ
アリマセウガ、能ク金融ノ途ヲ講セラレテ、
方法ガアリマセウ、サウ云フ點モ御考究ヲ
例へば五十億ノ負債ガアルナラバ、五十年
間ノ期限ニソレヲ何トカシテ返ストカ、サ
ウシテ一年ニ一億圓ヅツ拂フトカ、色ニナ
願ヒマシテ、特ニ農村ノ無駄排除、無駄ナ
費用ヲ排除スルト云フコトニ付テ、一層
御努力、御注意ヲ願ヒタイ、農村ニ付
テ細カニ研究サレタナラバ、無駄ナ費用
モアリハシナイカト思ヒマス、サウンテ資
金ヲ融通セラルル場合ニモ、其金ハ有效適
切ニ使フヤウニ、此邊ノ御取締ニ付テ御注
意ヲ願ヒタイト思フ、殊ニ稅制ノ問題ニ付
チハ、最モ慎重ナル御研究ヲ願ヒタイ、大
蔵省ノ調査ニ依リマスルト云フ
ハ、之ヲ商工業者ニ比スルニ二倍餘ノ高
率ニナツテ居リマス、然ルニ農家ノ收入ハ疊
農會ノ最近ノ調査ニ依リマスルト云フト
田畑所得者ト、ソレカラシテ田畑所得者ノ
現在ノ負擔額ト、營業所得者ノ現在ノ負擔
額ト云フモノヲ比較シテ見マスルト云フト

千二百圓ノ收入デ農家ノ方ハ營業所得者ニ
比シマシテ二倍一割三分、二千圓ノ收入ニ
於キマシテ二倍三割、三千圓ノ收入ニ於キ
マシテ二倍四割、五千圓ノ收入ニ於キマシ
テ一倍九割九分、一万圓ノ收入ノ人ニ於キ
マシテ二倍七分、三万圓ノ收入デアリ
マスト、一倍七割七分、十万圓ノ人デアリ
マスト、一倍七割七分、平均二倍七分ト云
フモノガ、營業所得者ヨリモ農家ノ所得者
ノ方ガ稅ガ高クナッテ居リマス由テ農家ノ
此稅制ト云フコトニ付キマシテハ、負擔ノ
均衡ヲ何トカシテ、是ノ減稅ノ方法ヲ御研
究ニナルト云フ事柄ハ、農村根本政策トシ
テ重大ナコトデアリマス、其外米專賣ノ利
害得失、是モ大分農家デ聲ガアリマスルガ
果シテ米ノ專賣ガ出來ナイモノカ、出來ル
トスレバド位ノ費用ガ掛ルト云フコトノ
御調査ヤ、ソレカラ納稅ト云フモノニ米ヲ
以テ納稅ヲセシメタラドウデアルカ、米デ
モ金錢デモ農民ノ好ム所ニ依テ、納稅セシ
メルヤウナ制度ヲ布カレタラドウデアル
カ、ソレカラ自作農ト小作農ニ限り、或ル
制限ノ下ニ、自家用料ヲ許サレタラドウデ
アルカ、是ハナルベク農家ラシテ自給自足、
金ヲ使ハセナイ方法ヲ講シテ、農村ヲ振興
セシムルト云フコトニ付テノ御研究モ願ヒ
タイ、殊ニ農家ノ不況ニ付テ、私ハ農林大
臣ト商工大臣ニ御研究ヲ願ヒタイ、從來副
業ト言ヘバ大概農業ダケニ限テ居タ、勿
論農業ノ副業ト云フモノモ必要デハアリマ
スルガ、更ニ此農家ノ餘剩、餘剩勞力ト云
フモノヲ工業化スルト云フコトハ必要デナ
イカ、鐵工業トカ、化學工業ノ如キ之ニ類
スル仕事ハ即チ工業集中主義デアリマス、
レドモ、簡易ナ工業ハ、即チ工業分散主義
ト云フコトニ付テ、御研究ニナッタラドウデ
アルカ、農家ニハ閑ナ農時、即チ農業ノ閑
ノ時ガアリマス、遊ンデ居ル勞力ガアリマ
ス、サウシテ近頃ハ如何ナル所ニ行キマシテ
モ、「スキ」ヲ一ツ捻レバ直チニ動力ガ出

テ來ル、殊ニ此動力ハ夜間ハ電燈デ大分
費ヘテ居リマスルガ、晝間ハ遊シ居ル動
力ガアラウト思ヒマス、此遊シ居ル動力
ト闊ナ農家ト云フモノノ効キヲ結付ケマシ
テ、サウシテ之ニ簡単ナル機械ヲ備へ付ケ
サセル、サウシテ農家ニ用フル所ノ絲トカ
「シャツ」靴下、足袋、其他「メリヤス」等ノ
製品ヲ作ラセル、併シ是等ノ仕事ハ是ハ例
ニ申シマスルガ、研究シタナラバ簡単ナル
機械ト農閑ヲ利用シテ、色々工業的ノ仕事
ガ出来ルデアラウト思ヒマス、デ或ハ自己
ノ用ヲ便ジタリ、或ハ之ヲ賣品トスル、勿
論非常ニ精巧ナ物ハ出来マスマイガ、サウ
シテ各村ニハ組合ヲ設ケマシテ、政府ハ之
ニ獎勵補助ヲ與ヘル、サウシテ又主務省又
ハ府縣ニ於キマシテハ技師ヲ置キマシテ、
其組合ヲ教ヘテ歩ク、指導シテ歩ク、出來
タ製品ハ至シテ販イモノデアラウト思ヒマ
ス、農家ハ勞銀カ要ラナイ、要ルトシテモ
僅カナモノデアリマス、必ず廉價ニナル、
サウシテ各組合デ出來タ製品ヲ相當ノ資格
ヲ、相當ノ方法ヲ以テ規格ヲ統一シ、此出
來タ品物ヲ一纏メニシテ南洋其他適當ナ所
ニ輸出サレタナラバ、是ハ私ハ十分ナ見込
ガアルコトト思ヒマス、私ハ其點ニ付テ專
門ノ人ニ聞イテ見マシタガ、ソレハ非常ニ
見込ガアルト云フコトデアリマス、色々例
ヲ調べテ見マスト、例ヘバ米國ノ「フォ
ード」ハ自動車ノ部分品ト云フモノヲ附近ノ
農村ノ過剰勞力ヲ利用イタンマシテ廉基之
ヲ作ラシメタ、サウシテ農民モ非常ニ潤シ
タガ、同時ニ自分モ利得シタ云フ事柄ハ、
是ハ御承知デアリマセウガ、アア云フヤウ
ナ雑誌ニモ載シテ居リマス、初ハ私ノ希望ス
ルノハ、一府縣一万圓位宛ノ補助金ヲ出サ
レテ、總額四五十万出サレテ、試験的ニシ
其内ニ適當ナモノヲ指定シテ試験的ミヤラシ
良クナテ來レバ、ソレヲ擴張サレルト云
フコトモ一ツノ方法デハアルマイカト思ヒ

マス、此點ハ何卒商工大臣ト農林大臣ト共ニ御研究ヲ願ヒタイ、又蠶絲業ノ政策ニ付キマシテハ、生絲、原料繭ノ規格統一策ガ最モ必要ナコトヲ思フノデアリマス、蓋シ今後ノ養蠶業ト云フモノハ優良品ノ安價生産ト云フコトヲ主眼トシテ進マナケレバナラヌト思ヒマス、之ニハドウシテモ原蠶種ノ國營ヲ斷行スル必要ガアルト思フ、サウシテ品質ノ向上、能率ノ増進ニ努メラレルト共ニ、產繭販賣ノ統制ヲ圖ラマシテ、サウシテ繭價ノ維持ニ努メラレルト云フコトガ、我ガ蠶絲業ノ安定ヲ期スルコトト思ヒマス、以上ハ御参考ノ一端トシテ述べタ次第デアッテ、決シテ政府デ御調査ニナル事柄ヲ制肘ヲシタ譯デハアリマセヌガ、ドウメ農村ガ危急存亡ノ時ニ際シマシテ、本建議案ノ目的達成ニ内閣諸公ハ熱誠ト同情トヲ以テ御懇力アラムコトヲ願フノデアリマス、若シ此建議案ガ此貴族院ヲ通過イタシマスレバ、來年ノ通常會ニ於テドノ位各大臣ガ此建議案ノ趣意ヲ讀マレテ施設經營セラレタカト云フ事柄ハ、是ハ年々決議案或ハ建議案或ハ質問トナツテ現ハレルコトと思ヒマス、何卒十分分此邊ノコトヲ御研究ヲ願ヒタイ、萬一不幸ニシテ内閣ガ更迭スルヤウナ場合ガアリマスレバ、ドウゾ次ノ内閣ニ此貴族院ノ精神ノアル所ヲ御引繼アラムコトヲ希望スル次第デアリマス、以上ヲ以テ提案ノ趣意ト致シマス

〔内田重成君演壇ニ登ル〕

○内田重成君 私ハ只今議題ト相成テ居
リマスル建議案ニ對シテ贊意ヲ表スル者デ
ゴザイマス、先刻來湯地君ヨリ我ガ農村狀
況ニ付キマシテ詳シク御述べニナッテ居リ
マスルノミナラズ、農村狀況ハ本議會中各
般ノ機會ニ於キマシテ屢々論述セラレテ居
リマスル、ノミナラズ新聞紙ノ報道、縣、
郡、町村農會ノ報告又ハ決議、町村長集會
ノ決議、其他實地踏査セラレタル方々ノ報
告等ニ依リマシテ、詳細ニ報道セラレテ居

居リマスルカト云フ状況ハ餘ニ明瞭アリヤシテ、所謂周知、公知ノ事實デアリヤス、仍テ數字ヲ擧ゲマシタリ、又ハ事實ヲ列舉イタシマシテ具體的ニ申上ゲルコトハ、時間ノ極メテ重要ナル時期ニ於キマシテ、私ハ遠慮アルコトヲ適當ト考ヘマス、今日ノ農村ノ實情ヲ約言イタシマスルナラバ、農村ノ文化ガ一般ノ文化ニ非常ニ遅レチ居ル、誠ニ荒蕪落莫ノ有様デアルト云フ其實情ニ村キマシテ申上ゲマスルコトハ、暫ク是ハ差控ヘチ置キマスル、現在ノ焦眉ノ急ト致シマシテハ、只今湯地君ヨリ詳細統計ヲ擧ゲテ説明ヲセラレマンタル通り、或全ク農民ハ農産物ノ最近ニ於ケル價格ノ暴落ニ祐リマシテ、其收益ハ遙ニ生産費ニ及バズ、土地ノ所有者ノ收益ハ租稅其他ノ公課ヲ差引キマシテ、餘ス所幾何モナシ、或特殊ノ人ヲ除キマシテハ、毎年々々借金ニ加フルニ借金、ソレデ是マデハ漸クニ過シテ參リマシタ、今ハ借金ヲ致シマスル能力サヘモ全然失テ居リマスル、絶對絶命、未會有ノ難局ニ直面セリト云フノハ、約言ヲ致シマシタル要約デゴザイマスル、是ガ爲ニ生ジテ居リマス所ノ影響ハ甚ダ大ナルモノガナリマシテ、國家中堅ノ一ツデアル所ノ地方ノ中產階級ニ多數ノ倒産者ヲ生ジテ居リマス、倒産ニ至ラザルマデモ殆ド風前ノ燈火ノ如ク青息吐息、氣息奄々ノ有様デアル者ガ全部デアルト申シテモ過言デハナイト思ヒマス、或ハ國民教育ノ上ニ於キナシテ第一ノ權威者デアル所ノ小學校ノ教員ニ對スル脅威、迫害、侮辱ト云フコトニ想上ニ及ボシマシタル影響ハ極メテ重大デアリマシテ、農村ノ將來ニ付キマシテハ眞トナリ、小作爭議トカ云フ風ニ、經濟上思ニ寒心ニ堪ヘザルモノガアルノゴザイマスマ農村デ失脚イタシマシタル者ガ都市ニ

流レ込ミヤスルノハ、是ハ已ムヲ得ヌコト
要素デアリマスル、農業生産ノ重要ナル所ノ
農村ノ將來ニ付キマシテ、絶望的ノ意向ヲ
持ツテ居リマシテ、何レモ機會サヘ有スル
ナラバ、商工都市ニ走リツツアルノデ
アリマス、近頃ハ農村ノ青年男女、愈々此
雄辯大會等ニ於キマシテ、堂々ト農村
ニ於ケル農民収益ノ增加安定、茲ニ地
上向土ノ見込ノナイト云フコトヲ公言ヲ
致シテ居リマス、而シテ優良ナル所ノ青年
男女子ハ離村スルノデアリマス、是等ノ狀
況ニ即シマシテ、農村將ニ崩壊セムトスト
悲觀スル人ガ少クナインデアリマス、私ハ
元來農村ノ荒廢ト力崩壊ト力云フヤウナ悲
觀的ナ言葉ハ農村ニ對スル資本ノ投下ヲ妨
ゲ、及ビ農村在住者ニ對シマシテ、農村絕
望ノ思念ヲ強タル譯ニナリマスカラ、餘程
慎マナケレバナラエコトト思ヒマス、或ハ
已ムヲ得ズ左様ナル悲觀的ナ言葉ヲ用キル
モノガ多イト云フコトノ事實ヲ申上ダガネ
レバナラヌト云フコトヲ、頗ル遺憾ニ存ジ
マス、遺憾ナガラ農村將ニ崩壊セムトスル
悲觀説ハ、現在ニ於キマシテ、強チ誇張ナ
ル言葉デハアリマセヌ、農村ノ眞相ヲ究メ
タル人ハ頗ル危惧ノ念ヲ懷イテ居ルヤウデ
ゴザイマス、抑國家社會ニ於キマシテ農
村ノ占ムル地位ハ、國ニ依リテ種々ノ相違
アルノミナラズ、又時代ニ依リテ變遷スルコ
トヲ免レマセヌ、我國ノ農村ハ其耕地面積
約六百餘万町歩ニ過ギナイ、然ルニ其上ニ
約三千餘万ノ人口ヲ包含シテ居リマス、我
國ノ農村ハ國民經濟ニ取リマシテ頗ル重要
ナル地位ヲ占メテ居ルノデゴザイマス、米
穀、生絲、木材ヲ初メ、我國ノ重要物產ノ
大數ハ何レモ純然タル農產物、又ハ農產物
ニ多少ノ加工ヲシタモノデアルト云フコト
ヲ見マスルナラバ、總體ニ於キマシテ全國
生産ノ大半ヲ占メテ居ルモノト察セラレマ
ス、其生産物ノ數量ノ多大デアル上ニ、之

ニ依ツテ衣食スルモノガ内地ダケヂ、約三千
万人ト云フ多數デアリマス、從フ其產業ノ
消長ハ全國ノ購買力ノ消長ノ大ナル原因ト
ナッテ、他ノ產業營業ノ上ニ重大ナル影響ヲ
及ボスモノデアルト云フコトハ極メテ明瞭
デアリマス、只今モ建議案説明者ノ申サレ
マシタル如ク我國現時ノ商工業ノ大部分ガ
農業購買力ノ消長ニ依ツテ盛衰ヲ異ニスル
ト云フ事實ハ、是亦周知ノコトデアラウト
考ヘマス、健全ナル農村ガ諸種ノ方面ヨリ
國家ニ貢獻スルコトノ多大ニシテ、其健全
ナルト否トハ國家盛衰ノ鍵デアルト云フコ
トハ、今更私方申上げルマデモナイコトデ
ゴザイマス、單ニ經濟的ノ見地カラ見マシ
テモ、農村ノ盛衰興亡ハ單リ農村ノ興亡ノ
原因ニ止マラズ、又同時ニ商工業興亡ノ原
因ト相成リマスルカラ、此意味ニ於キマシ
テ我が農業ハ、今日我國ノ國民經濟ノ基礎デ
アツテ、農業ノ利害ハ農業關係者三千万人ノ
休戚ノ問題タルノミナラズ、全國民ノ經濟
政策ノ安危ニ重大ナル關係ヲ及ボスモノト
言ハネバナリマセヌ、我國ノ產業政策ニ付
キマシシテハ、商業大ニ助長セザルベカラ
ズ、工業大ニ振興セザルベカラズ、併ナ
ガラ農業モ亦之ヲ維持シ促進シ改善セザル
ベカラザルモノデアルト考ヘマス、此產業
ノ並行鼎立ト云フ主義ハ、產業政策ノ唯一
ノ方針デアルト思ハレマス、然ルニ現狀ハ
如何デアリマセウカ、果シテ此農業ガ商業
工業ト並行鼎立ノ態度ヲ以テ居リマスカド
ウカ、之ヲ直視イタシマスルナラバ、何人
ト雖之ヲ否定スルト云フコトニ付テ疑ヒマ
セヌ、農村問題ハ數年前カラ研究セラレ
タル問題デアリマシテ、政府モ其解決策ヲ
主トシテ農村振興ノ方面ニ從來求メテ居ラ
レマス、ガ其方策トシテ今マデ施設セラレ
マシタ所ノ形ヲ見マスレバ、ドウモ顯著ナ
ル效果ガ現ハレテ居ルヤウニ考ヘラレマセ
ヌノデ、產業政策ノ大方針ヲ立テラレテ、
其方針ノ下ニ施設セラレテ居ルモノトハ見

ドウモ此農村ニ對スル問題ニ付キマシテハ、
場當リ政策、人氣取り政策、選舉第一政策
ニ墮シテ居ルト云フ批評ヲスル人ガアリマ
スルガ、強チソレヲ否定スルコトモ出来ヌ
コトデハナイカト思ハレルノデアリマス、
現政府ニ於キマシテ農村問題ノ對策ニ付
テ、農村ノ金融、絲價ノ補償、米穀賣上ダ
小作法案制定ト云フ風ニ、色々施設セラレチ
アルヤウデアリマスガ、私共ハ其御施設ノ效
果ガ今日以後ニ於キマシテ、如何ナル程度
ニ現ハレテ來ルカト云フコトニ付テ、十二
分ノ疑ヲ有シマシテ居ルモノデアリマス、現内
閣ハ其十大政綱ノ最後、第十ト云フ中ニ於
キマシテ、其第十八、第九マデノ所ニ於キ
マシテ重要ナル政策ヲ掲ゲラレ、十二於テ
掲溜メト申シマシテハ、失禮デアリマスル
ガ、色ニノ其他ノ政策ト云フコトデ掲ゲラ
レテ居リマスル多數ノ寄セ集メノ意見ノ中
ニ、農村改善ト云フ僅カナ文字ガ現ハレテ
居リマス、昭和二年ノ民政黨政策ノ第二ニ
於キマシテハ、稍詳密ニ農村問題ニ付
テ掲ゲテ居リマスルガ、不幸ニシテ現内閣
ノ十大政綱ニ於キマシテハ、其第十ノ一番
終リノ方ニ僅カナル文字ガ現ハレテ居ルダ
ケニ止マルノデアリマス、而シテ過グル二
十日ニ於キマシテ、施政演説中ニモ此農村
問題ノ言及ガナイト云フコトニ付テ申サレ
タ方モアリマシタガ、左様ナ方ニ餘リ御力
瘤ガ入ツテ居ラヌヤウニ考ヘマス、數年前ハ
農村疲弊ト申シマシテモ、都市ト農村ノ生
活ノ比較カラ相對的ニ農村ノ總テガ都會三
第四テ居ル關係上、農村ノ疲弊ヲ懇ヘタ形跡
ガアリマシタ時代ニハ、所謂農村振興策ノ
二三ヲ以テ一時ヲ過スコトガ出來マシタノ
デゴザイマセウガ、近頃ニ於キマスル此農
村ノ疲憊ト云フモノハ、餘リニ悲惨デアリ
マシテ、今ハ絶對的ノモノデゴザイマス、
決シテ此農村ノ叫ビヘ都市トノ生活ノ比較

ヨリ之ヲ音ノデハゴザイマセヌ、其事ハ近頃ノ農家經濟ノ狀況ニ照シ、マシテ極メチ明瞭デアリマシテ、農村振興ヲ要望スル農民ノ聲ハ眞劍デアリマス、決シテ此誇張ノ言ヲ弄シマシテ都市生活者ノ生活態様ヲ羨メ生レタ所ノ欲求デハアリマセヌ、此秋ニ當リマシテ政府ハ農村現在ノ窮境ヲ打開スル爲ニ最善ノ努力ヲナスベキハ勿論、將來ニ對シマシテ國家永遠ノ興隆繁榮ヲ期スル爲ニ、速ニ此農政ノ大本ヲ樹立スル所ノ責務ヲ有セラルモ、曠日彌久、春日遲々トシテ暢氣ニ構ヘ居ラレマシテハ、國民經濟上ハ勿論社會的ニモ由々シキ結果ヲ生ズル虞アルモノデアルト云フコトヲ、私ハ確信ヲ以テ斷言スルモノデアリマス、其結果が如何ナルモノデアルカト云フコトハ、只今空想的ニ之ヲ詳シク論ジマスル時間ヲ持チマセヌカラ、此點ニ付キマシテハ御判断ニ任せマスル、政府當局ニ於テモ深ク山出シ妹篇ナスモノト言フテ宜カラウト思ヒマス、殊ニ此建議案ヲ提出セラレマシタ院ニ於キマシテナサレタ所ノ產業救濟決議申サレテ居リマスル通り、唯一時ノ此農村ノ窮境ヲ救濟スベント云フ單純ナモノデハアリマセヌ、此建議案ノ中ニ書イテアリマス能ク此點ニ付キマシテハ御覽味アラムコト固、國穀ト云フ文字ハ決シテ此建議案ノ文書ニ付キマシテハ終緒ニ付セラレマセズニ、此建議ノ趣旨ヲ體セラレテ最善ノ努力ヲ致サレ、國本、國穀ト申シテ居ル、其國穀ノ文字ヲ私ハ望ンデ居ルノデアリマス、二千年ノ昔、農ハ國ノ大本ニシテ民ノ恃ンデ以テ生タル所ナリト云フ聖旨アリテ以來、農ヲ以テ國本、國穀ト申シテ居ル、其國穀ノ文字國民ヲシテ農村ノ將來ニ付テ駕蕩タル春光ヲ認メテ、太イニ安堵セシメラレ、其成績

ハ、前説明者モ申サレマシタル如ク、次ノ議會席頭ニ於テ現ハルモノト期待ヲ致シテ居リマス、此意味ニ於キマシテ私ハ本案ニ賛成ノ意ヲ表スルモノデアリマス。

〔小林嘉平治君演壇ニ登ル〕

○小林嘉平治君
君ノ説明ヲ承ハリマシタ、又賛成者トシテ懇切ナル賛成ノ理由ヲ御述べニナリマシタ、私ハ茲ニ蛇足ヲ添ヘルノ必要ハナイノデアリマスガ、私一個ノ私見デハアルカ知レマセヌガ、端的ニ此提案ニ對スル所ノ結論ガ見出ダシタインデアリマス、具體的ニ直ニ我ニノ手ニ於テ實行ノ出來ル所ノ結論ヲ見出シタインデアリマス、農村振興ノ根本對策ヲ致シマシテハ、ドウシテモ教育ノ問題ニ觸レネバナリマセヌ、私ガ申上ダルマデモナク今日ノ不景氣ハ世界的デアリマス、亞米利加ハ世界ノ金貨ノ半バニ近イ數量ヲ占メテ居ルト申シマスガ、尙ホ不景氣ニ苦シミ、澤山ノ失業者ヲ出シテ居リマス、唯其中ニ世界カラ義マレテ居ル一ツノ國ガアリマス、ソレハ私ガ申上ゲルマデモナク丁抹デアル、アノ丁抹ノ、アノ天惠ニ恵マレナイ丁抹、又五六十年ノ昔如何ナル憚レナル狀態デアツカト云フコトヲ承知シテ居ル我ニガ、今日ノ丁抹ノ生レ來ルコトヲ誰ガ豫想スル者ガアリマシタカ、而モ是ハ一老先生ガ農村ニ思ヒテ致シテ國民教育、農村ヲ本位トセル國民教育ニ力ヲ盡シタ結果ガ、今日ノ丁抹ヲ來シタノデアリマス、シテハ、農村ニ即セル教育ヲ施スト云フコトニ力ヲ盡サナケレバナラヌコトハ言フ迄モアリマセヌ、併シ是ハ恆久ノ策デアリマス、今直ニ結果ヲ持來スコトハ出來マセヌ、ヒ得ル所ノ國策ヲ有ツテ居ルノデアリマス、ソレハ何カト申シマスルト今問題ニナフ

居リマス地租法ノ改正フノモゼノデアリマス、先刻來湯地サンヲ始メ、此議會始マツテ以來、議會始マツテ以來、私ハ農村問題ニ付テ、此演壇テ以テ、此議會ホド論究サレタコトハ少ナイデアラウト思ヒマス、湯地サンハ先刻詳シク農村ノ窮状ニ付テ御話ニナリマシタ、或ハ數字ヲ根據トシ、或ハ事實ニ基イテ、又此負擔ノ重イト云フコトニ付テモ、統計上肆示シニナツタノデアリマス、即チ農民ノ負擔ハ商工業者ニ比シテ二倍以上デアル、此點ニ觸レマシテハ、私ハ曩ニ君機内閣ノ時ニ、税制整理案ノ行ハレタ時ニ、所謂縱ノ均衡ハ出來タが横ノ均衡ハ出来テ居ナイ、ソレハ何デアルカト云フト商工業者下農民ノ負擔ト云フコトニ付テハ、シモ注意ガ拂ハレテ居ナイ、私ハ自分ノ調査シグモノヲ根據トシ、或ハ帝國農會、或ハ大藏省ノ調査ヲ根據ト致シマシテ、只今湯地サンノ伸セラレタヤウナ意味ヲ申上ゲテ、サウシテ他日此地租法ノ實行セラルル時ニハ此點ニ付テ考慮セラレタイト云フコトノ御願ヲ申上ゲテ置キタノデアリマス、然ルニ果セルカナデス、私共ノ望ミハ茲ニ叶ヘラレタノデアリマス、此地租法ハ全ク負擔ノ公平ト云フコトガ根據ニナツテ居ルノデアリマス、近頃此地租法ノ改正ハ都市ニ重ケシテ農村ニ大變都合ノ好イ法案デアルト仰セラレタノデアリマスガ、確カニ其通リデアリマス、茲ニ於テカ初メ負擔ノ公平ト云フコトガ見出サレルノデアリマス、租稅ノ公平ヲ缺イテ……公平ト云フ事ノ大事ナコトハ私ガ更メテ説明スルマデモアリマセヌ、苟クモ租稅ノ公平ト云フコトガ一ツノ鐵則デアルト云フコトヲ知ル入ヘ、私ハ、之ニ反對スル理由ヲ見出サヌノデアリマス、此地租法ヲ以テ増稅ナリト言ハル人ガアリマス、以テノ外デアリマス、私

○議長（公爵徳川家達君） 小林君、成ベク
本建議案ニ直接關係ノ事柄ダクヲ願ヒタイ
○小林嘉平治君 私ハ是ハ直接關係ノア
ル、端的ニ關係セル問題デアルト心得テ居
ルノデアリマス、今暫ク御清聽ヲ煩ハシマ
ス
○議長（公爵徳川家達君） 地租法案ハ目下
特別委員會デ審議中デゴザイマスカラ、地
租法案ニ關スルコトハ其委員長ノ報告ノ際
ニ御述べニナラレルガ適當ト考ヘマス、御
注意イタシマス
「賛成」賛成「ト呼フ者アリ」
若シ御承知ガナケレバ議場ニ諸ル考ヘデア
リマス
○小林嘉平治君 只今議長ノ御注意ヲ尊重
イタシマシテ、私ハ詳シイコトハソレデハ
此減税案ノ提案ナレタ時ニ述ベルコトニ致
シマス、要スルニ此法案ニ依テ農民ハ茲ニ
救イ出サレルノデアリマス、只今議長ニ御
注意ヲ戴イタ此法案ガ、此重要法案ガ、委
員長ノ手ニ在ツテ二三日ノ間ニ解決サレル
ト云フ此時期ヲ實ハ選ミタカッタノデアリ
マスガ、只今ノ御注意ニ依リマシテ、私ハ
茲ニ此意味ノ演説ヲ續ケルコトヲ見合セマ
スルガ、之ヲ要スルニ地租法ノ可決サレル
事ニ依テ、多數農民ハ茲ニ救ハレルコトガ
出來ルノデアリマス、農民ハ國民ノ多數ヲ
占メテ居リマス、併ナガラ寔ニ力ノ弱イモ
ノデアリマス、私茲ニ實例ヲ思ヒ浮ベルノ
デアリマス、此減税案ニ付テ屢々憂目ヲ見
テ居リマスガ、加藤友三郎内閣ノ時デアッタ
シテ二割減ヲ主張イタシテ居リマシタガ、
當時地租委譲ナル一つノ議論ガ行ハレマシ
タ爲ニ、農民ニ對スル減税ト云フコトガ實
行サレマセヌデシタ、又我ニガ此議員トナッ
テ以來ノコトデアリマス、若機内閣當時ニ

競賣法中改正法律案

報告稿七
昭和六年三月十九日

貴族院議長公爵德川家達殿 委員長子爵伊東祐弘

用印紙法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及
報告候也

昭和六年三月十九日

貴族院議長公爵德川家達殿
委員長子爵伊東祐弘

日本勸業銀行法中改正法律案

報告候也

昭和六年三月十九日
委員長

貴族院議長公爵徳川家達殿

農工銀行法中改正法律案

報告候也

昭和六年二月十九日

貴族院議長公爵德川家達殿

北海道特許銘行法に已正決候
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及
報告候也

昭和六年三月十九日

貴族院議長公爵德川家達殿
委員長子爵伊東祐弘

國稅徵收法中改正法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及

報告候也

貴族院議長公爵德川家達殿 委員長 子爵伊東祐弘

貯蓄銀行法中改正法律案

右可決ノヘギモノナリト議決セリ依テ及
報告候也

昭和六年三月十九日

委員長 子爵伊東

祐弘

貴族院議長公爵徳川家達殿

(子爵伊東祐弘君演壇ニ登ル)

○子爵伊東祐弘君 只今議題ニ上ボリマツ

タ抵當證券法外九件ノ特別委員會ノ御報告書ヲ申上ゲマス、特別委員會ハ委員長副委員長ノ互選後四回開會イタシマシテ、司法大臣抵當證券法案ニ付テハ特別委員會ト大體ニ瓦リ又逐條ニ付テ質疑應答ヲ重ね、慎重審議ノ結果、各案ヲ大多數ヲ以テ可決イタシタノデアリマス、尙ホ抵當證券法案ニ付テハ特別委員會トシテ希望決議ヲ付シタルノデアリマス、希望決議ニ付テハアトデ申上ゲルコトニ致シマス、抵當證券法案ノ提出ノ理由ハ、上程ノ如キ、尚ホ抵當證券法案ニ付テハ特別委員會ト

ニ省略イタシマシテ、本案規定ノ運用ニ付テ極ク大要ヲ申上ゲマス、法案ニ依レバアリマス、抵當證券法案ノ提出ノ理由ハ、上程ノ如キ、尚ホ抵當證券法案ニ付テハ特別委員會ト

地建物、又ハ地上權ヲ目的トスル抵當權ヲ有スル者ハ債務者等ト特約又ハ同意ヲ得タル場合ニハ特殊ノ抵當券ノ交付ヲ申請スルコトガ出來ルノデアリマシテ、是ガ發行セラレマシタ場合ニハ證券ニ記載シタル抵當權ト共ニ其裏書ニ依テ讓渡セラレルノデアリマス、從テ爾後一々譲渡ノ登記ヲ必要トセズシテ轉々セラレテ行クコトニアルノデアリマスカラ、其裏書人ガ信田アル場合ニハ、一々擔保タル不動產ニ付トシテ債務ノ實行ニ依テ債務ノ辨濟ヲ負擔スルモノデアリマスカラ、其裏書人ガ信田アル場合ニハ、一々擔保タル不動產ニ付トシテ債務ノ實行ニ依テ債務ノ辨濟ヲ負擔スルモノデアリマス、從テ爾後一々譲渡ノ登記ヲ申請スルコトガ出來ル譯ニナルノデアリマス、證券ノ發行セラレマシタ後ハ、抵當權及債權カラ、抵當證券ハ一種ノ有價證券デアリマスシテ、其性質ガ手形ト類似シテ居ルノデアリマス、故ニ手形ニ關スル多クノ規定ガ有

當證券ニ準用サレテ居ルノデアリマス、尙ハ登記ヲ爲スニ非ザレバ第三者ニ對抗スルコトガ出來ナイノデアリマスガ、本證券ニナルノ抵當權ハ此原則ノ例外ヲナスモノニアリマス、要スルニ抵當證券ハ不動產抵當附債權ヲ手形ノ上ニ現ハシタヤウナ證券ニナガ是マニニナイ新シイ企テデアリマシテ、登記官史ノ事務ノ習熟、又本法ニ對スル一般ノ理解ヲ十分ナラシムル等ノ關係上、先づ市制施行地、借地法施行地及浦和町ノ豫定デアリマシテ、此際ハ市街地ノ土地、建物ガ抵當證券ノ目的トナル譯デアリマス、次ニ不動產登記法、民事訴訟法、競賣法及民事訴訟用印紙法中ノ改正ハ抵當證券法ノ制定ニ伴フ當然ノ改正デアリマシテ、是ガ殆ド全部ヲ占メテ居ルト云^テ、宜シノイデアリマス、是ハ多ク手續ノ規定ニ屬シマスルカラ、一々申上ガルコトハ茲ニ省略イタシマス、次ニ日本勸業銀行法、農工銀行法及北海道拓殖銀行法中ノ改正法律案ハ五ニ共通ノ點ガアリマスカラ、總括シテ改正ノ點ヲ申上ゲマス、一方ニ抵當證券法ヲ制定スルト同時ニ、是等ノ三銀行ニ改善ヲ加ヘマシテ、是等ノ銀行ヲシテ抵當證券ヲ賣買シ、又ハ之ヲ質トシテ定期償還貸付ヲ爲スノ途ヲ開キ、又抵當證券トナツテ居ラナイ所ノ不動產抵當債權ニ付テモ同様ノ貸付ヲ認ムルヤウニ致シタノデアリマス、又此種類ノ業務ヲ新タニ認ムルコトニ依リマシテ、定期償還貸付限度、又ハ債券發行限度ノ擴張ヲナシテ、更ニ是等ノ銀行ハ從來モ農業者、工業者、又ハ漁業者ニ對シマシテ、十人以上ノ連帶貸付ヲ認メマシテ、長期低利ノ資金ノ利用ヲ容易ナラシメタノデアリマス、又農工銀行及北海道拓殖銀行ニ於キマ

シテハ、今日相當資金モ充實シテ居リマス
カラ、道府縣ニ對スル無抵當貸付ヲ認メル
コトニ致シタノデアリマス、尙ホ又日本勸
業銀行ヲシテ、日本銀行ガ管理スル有價證
券ノ申デ、勸業銀行發行ノ債券ヲ、便宜日
本銀行ニ代テ管理スルコトヲ許シ、又農工
銀行ガ農工債券元利金支拂等ノ爲ニ、他ノ
農工銀行ノ代理店トナルコトヲ認メタノデ
督ノ方面カラ十分ニ注意スルト云フコトデ
アリマス、而シテ普通銀行ノ職能ニ付キマ
シテ、不動産抵當貸付ニ關スル從來ノ方針
ハ、之マデト依然變ルコトナク、検査及監
督ノ方面カラ十分ニ注意スルト云フコトデ
アリマス、次ニ國稅徵收法中ノ改正ハ、抵
當證券法ノ制定ニ伴ヒマシテ、納稅者ノ財
產ノ上ニ抵當權ヲ設定シタルモノガ、證券
ガ發行セラレタ爲ニ國稅ニ對スル先取權ヲ
行使スル機會ヲ失フ場合デアリマスカラ、
其行使ノ機會ヲ得セシメル爲ニ猶豫期間ヲ
與ヘタ改正ト、從來稅法ノ改廢ニ伴ヒマシ
テ改正スペキ點ヲ改正シタノデアリマスガ、其實施後ノ
實情ニ鑑ミマシテ、其業務トシテ營マシム
ルモ差支ナイト認メタ種目ヲ追加シ、又資
金運用ノ範圍ヲ擴メマシテ、殊ニ同銀行ガ
庶民階級ニ對シテ對人信用ニ依ル或程度ノ
資金ヲ供給スルル途ヲ開イタノデアリマス、
次ニ質問應答ノ二三ヲ申上げマス、先づ司
法省所管ニ關聯シタ點ヲ申上グマス、第一
ハ登記ヲ省略スルト云フコトハ、流通ニハ
便利デアルト思フガ、債務者ニハ證券ノ所
持人ガ分ラナイコトガアツテ不利益ナコト
ハナイカ、之ニ對シテハ抵當證券ハ手形ノ
ヤウニハ左程轉々シナモノト思フカラ、
債務者ニ於テ所持人ガ誰デアルカ大體ノ見
當ハ付クモノト思フ、殊ニ利息ハ所持人ノ
方カラ債務者ニ請求スルモノデアリ、又本
法ニ於テハ白地裏書ヲ禁止シテ居ルカラ、
裏書人ヲ述シテ見レバ、大體ハ見當ハ付クト

考ヘル、第二ニハ、本法ハ市街地ノミニ行シテ、一般農民ニ施行シナインハ、主トシテ經費ノ關係ニ因ルノカ、之ニ對シテハ、經費ノ點モアリマス、登記所ノ書記ガ此證券事務ニ慣方ヘモ施行スル考デアルト云フコトデアリマス、第三ハ、元本ノ一部又ハ利息ノ支拂ヲナシタ時、所持人ガ證券面ニ記載スルコトナツテ居ルガ、ソレハ間違サク行クデアラウカ、又手形ハ裏書ダケテ宜オトシテモ、マス、第三ハ、元本ノ一部又ハ利息ノ支拂コトハナイト思フ、一々登記ヲシタラ如何デアルカ、之ニ對シテ本證券ハ呈示證券デアルテ、支拂フ時ニ同時ニ所持人ガ記入シナケレバナラヌモノデアル、債務者ハ證券ヲ呈示シナケレバ支拂ヲ拒ンデモ宜シゾノデアルカラ、間違サク行クモノト考ヘル、又證券ハ若シ流通性ヲ持タス以上ハ、裏書ダケデ、讓渡スルヨトハヤムヲ得ヌコトデアルテ、讓渡シニ登記ヲ要シナオト云フコトガ即チ抵當證券ノ骨子トナツテ居ル次第デアル、次ニ又抵當證券ガ發行セラマシタル、次ニ又抵當證券ガ發行セラマシタル、非常ニ少イカラ、之ヲ認メルトスレバ法律ノ規定劣色セゾ方面ニ複雜シテ來テ面倒ニナルカラ、之ヲ除オタノデアルト云フコトデアル、次ニ大藏省關係ノ質問ノ主モナルモノヲ申上ゲマス、抵當證券法ノ實施後ニ於テハ、勸業銀行、農工銀行及北海道拓殖銀行ニ於ケル擔保價格ニコトハ出來ナイト思フ、利率ニ付テハ是等ノ銀行ハ現在ニ於テ相當低利デアルカラ、今直ニ之ヲ變更スルコトハナイト考ヘル、併シ普通銀行其他ノ不動產貸付ノ條件ハ、

シテ參^ステ、債務者ニハ從來ニ比シ利益ニ
カルコトト考ヘル、第一ハ抵當證券法ヲ施行區域ハ主シテ市街地ニ限ラシテ、今日最^モ必要ラ感ジテ居ル地方農村ノ金融ヲ繋通セシムル上ニ何等效果ノナイモノト思フガ、之ヲ全國ニ擴張スル考ハナイカ、之ニ對シテ本法ハ從來ナ新規ノ制度ヲ設クル法律デアリ、利害關係人ニ影響スル所モ大デアルカラ、登記官吏ノ事務ノ習熟、一轍ノ本法ニ對スル理解ヲ十分ナラシムル等ノ關係カラ、初メハ主シテ市街地ニ之ヲ觀タ^ク譯デアルガ、城^ルベク速ニ之ヲ全國ニ及ボスコトハ當局ニ於テモ希望スル所ニアル、而シテ農村ニ於ケル不動產金融ノ疏通ハ、勸業銀行法等ノ改正ニ依ル抵當附債權ノ質貸付ノ方法ニ致テ、相當效果ヲ學ゲ得ル積リニ考ヘテ居ル、質問應答ハ此程度ニ上メマシテ、次ニ質問ヲ終リ討論ニ移リマシテ、一委員カラ次ノ贊成ノ意見ヲ述ヘラレタノデアリマス、即チ抵當證券ハ政府當局ノ説明ニ依レバ、恰モ抵當權附ノ手形ノヤウナモノデ、債權ト抵當權トガ一證券ニ併合セラレテ、裏書ニ致^テ轉々セラルルモノデアルト云フコトデアル、故ニ其特徵ハ三ツノ點ガアルト思フ、第一ハ、抵當權ハ證券ニ化體セラレテ、證券ニ依リ移轉セラレテ登記ヲ要シナシトコトハ、抵當證券ノ骨子デアシテ、外國ノ抵當證券ニ於テモ亦同じコトデアル、之ニ依^テ抵當權ノ轉々ヲ容易ニシ、金融ヲ圓滑ニスルコトニナラウト思フ、第二ハ、證券ノ發行前ニ異議ヲ徵シテ其申出ナキカ、又ハ申出ノ理由ナキ場合ニ限^テ證券ヲ發行シ、其發行後ハ善意取得者ニ對シ異議ノ抗辯ヲ提出シ得ナイコトハ外國ニ例ノナイトデアルガ、我國ノ如ク登記ニ公信力ナキ法制ヲ下ニ於テハ、證券持有人ノ權利ヲ安固ナラシメ、安ンジテ證券ヲ取得シ得セシムル爲ニハ此制度ハ絶對ニ必要デアルト思フ、之ニ依^テ登記ニ公

トヲ望ム」、「一、不動産ノ所有者ノ利益ヲ保
護スル爲ニシテ其者ニ於テモ抵當證券ノ交付
ヲ申請スルコトヲ得ルノ途ヲ講スルヲ適當
ナリト思考ス仍テ民法改正ノ際此點ニ留意
シ右ノ趣旨ニ適應スル立法ニ付考慮ヲ拂ハ
レムコトヲ望ム」、此希望ガ出クノデアリマ
ス、採決ノ結果ハ大多數ヲ以テ御報告ヲ申上
レタ次第アリマス、大體以上御報告申上
ゲマス

○議長(公爵徳川家達君) 員長ノ報告セラ
マシタ各案ハ可決ヲ致シタノデアリマ
ス、尙ホ一委員ヨリ述ベラレマシタ希望
ハ、特別委員會ノ希望決議ト致シテ認メラ
レタ次第アリマス、大體以上御報告申上
ゲマス

○議長(公爵徳川家達君) メマス

○子爵西大路吉光君 葉ニ各案ノ第二讀會
ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵清岡長吉君 譲成

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認
メマス

○子爵西大路吉光君 葉ニ各案ノ第二讀會
ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 御異存ゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認
メマス

「長尾元太郎君、簡單デスガ、此席カラ
御質問ヲ御許シヲ願ヒマス(ト述フ)」

○議長(公爵徳川家達君) 議席デハ御起立
ヲ請ヒタイト存ジマスガ、長尾君ハドウニ
フコトデスカ

○長尾元太郎君 不動産ノ資金化ニ付テ簡
單ナル質問ヲ致シタイト想セマス

○議長(公爵徳川家達君) 政府ニ對スル質
問デゴザイマスカ、只今西太路子爵ソ
各案ノ第二讀會ヲ開ク前ニ、長尾君ニ發言
ヲ許シマス

ス、之ヲ以テ蠶絲業ノ改良發達及ビ統制ヲ圖ル目的デアリマス、而シテ是ハ營利事業ハ爲ストヲ得ザルモノトナテ居リマス、質問ニ付テ述べマサガ、詳細ハ速記錄ニ讓ルコトニ致シマス、第一、桑ニ鬪スル事業ハ何ノ組合ニ入レルカ、又桑園ノミノ經營スカ、第二、蠶絲業組合ハ種々ノ事業ヲ行他ノ組合ガアル、而シテ特ニ養蠶組合ガ出ルコトニナルト、負擔ガ加重ニナリハセヌカ、第三、蠶絲業組合ハ種々ノ事業ヲ行フモノデ、相當ノ經費ガカカル、此經費ニ對シテ政府ハ如何ニ考ヘテ居ルカ、第四、製絲業組合ニ生絲ノ検査ニ關スル施設ヲ行ハシメルコトニナシテ居ルカ、今度輸出生絲検査法ガ改正サレルノデ、必要ガナイヤウニ思フガドウカ、第五、日本中央蠶絲會ノ議員及び特別議員ノ數並ニ各團體ニ對スル議員ノ配當如何ハ、各業者ノ利害ニ大關係ガアル、其事ニ付テノ考ハ如何、斯様ナコトデアリマスガ、ソレニ對シテ政府ハソレゾレ答辯ヲ致サレテ居ルノデアリマス、討論ニ入りマシテ、三名ノ委員カラソレバ、贊成ノ御意見ヲ述ベラレマシタ、採決ニ當リ農林當局ニ對シ、本案施行ノ上ハ蠶絲業組合ヲ十分ニ監督指導シ、我國ノ蠶業ノ改良發達及ビ統制上遺憾ナキコトヲ期セラレ度キコト、及ビ衆議院ノ希望條件タル乾綱業組合ノ取扱ニ付テ、其希望ニ副フヤウニ考慮セラレタイトノ希望ヲ述べラレマシタ、採決ノ結果、本案ハ全委員一致ヲ以テ可決ト相成リマシタ、次ニ蠶絲業法中改正デアリマシテ、是ハ可決ト相成リマシタ、是ニテ報告ヲ終リマス

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認
○子爵西大路吉光君 直ニ各案ノ第二讀會
ヲ聞カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵清岡長言君 貢成

○議長(公爵徳川家達君) 西大路子爵ノ勳
議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認
メヌカ

○議長(公爵徳川家達君) 各案全部ヲ問題
ニ供シマス 全部原案ニ御異存ゴザイマセ
ヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認
メヌカ

○子爵西大路吉光君 直ニ各案ノ第三讀會
ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵清岡長言君 贊成

○議長(公爵徳川家達君) 西大路子爵ノ勳
議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認
メヌカ

○議長(公爵徳川家達君) 各案トモ第二讀
會ノ決議通リデ御異存ゴザイマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認
メヌス 此際午後二時三十分マデ休憩イタ
シマス

午後零時三十一分休憩

午後一時五十一分開議

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ書記官ヲ
シテ報告ヲ致サセヌカ

〔瀬古書記官朗讀〕

本日本院ニ於テ修正議決シタル左ノ政府提
出案ハ直ニ之ヲ衆議院ニ回付セリ

地方鐵道補助法中改正法律案

寄生蟲病豫防法案

本日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ
國立公園法案可決報告書
土地收用法中改正法律案可決報告書
昭和四年度第一豫備金支出ノ件、昭和四
年度特別會計第一豫備金支出ノ件、昭和四
年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外
支出ノ件追加、昭和四年度特別會計豫
備金支出ノ件、昭和四年度特別會計豫
備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件
追加、昭和五年度第二豫備金支出ノ件、
昭和五年度特別會計第一豫備金支出ノ
件、昭和五年度特別會計豫備金外ニ於テ
豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)可決報
告書
勞働者災害扶助法案可決報告書
勞働者災害扶助責任保險法案可決報告書
勞働者災害扶助責任保險特別會計法案可
決報告書

政府ニ負ハセル意味デハナイト考ヘテ居リ
マス、此事柄ハ豫算ニ關係イタシマスル憲
法、會計法ノ規定ノ全體ノ趣意カラ見マシ
テ明瞭ナコトト考ヘテ居ルノデアリマス、
豫算ハ會計上經費支出ノ目的及ビ其限度ヲ
定ムルモノデアリマシテ、政府ガ行政各般
ノ事務ヲ遂行スル義務ヲ定ムルコトトハ區
別シテ考フベキコトト思テ居リマス、政
府ハ憲法及法令ニ從^ツテ行政各般ノ事務ヲ
行フ職責ヲ有シテ居リマシテ、豫算ハ其事
務ノ遂行ニ要スル經費ノ支出ノ限度ヲ定メ
ルモノデアリマス、從^ツテ豫算其モノニ依ラ
テ政府ガ一定ノ支出ヲ爲スベキ法律上ノ拘
束ヲ受クルモノトハ認メテ居リマセヌノデ
アリマス、憲法ノ第六十四條ヲ御覽下サレ
マシテモ、豫算ノ款項ニ超過シタル支出又
ハ豫算外ノ支出ニ付キマシテ、後日帝國議
會ノ承認ヲ求ムルノ規定ガアリマス、併ナ
ガラ豫算ニ不用領ヲ生ジマシタ場合ニハ、
議會ノ承諾ヲ求ムル規定ガナイコトハ、豫
算ニ計上シタ金額ヲ使用スル義務ヲ負ハス
ルモノデハナイト云フコトヲ明カニ現ハシ
テ居ルモノト考ヘテ居ルノデアリマス、尙
ホ外國ノ例ニ付テノ御話ガアリマシタガ、
イタサシテ見マスト、英國、佛國、米國、
獨逸何レノ國ニモ、法理上大體同ジヤウナ
及ビ事例ヲ調査シテ實ヒタイト云フ請求ガ
アリマシタカラ、在外ノ職員ニ命ジテ調査
イタサシテ見マスト、英國、佛國、米國、
是ハ前議會ニ橋本圭三郎氏カラ外國ノ制度
及ビ事例ヲ採用シテ居リマシテ、又其實例モア
コトヲ採用シテ居リマシテ、アルノデゴザイマス、尙ホ誠ニ愚念カト考ヘ
マスガ、只今申上ダタコトニ關聯イタシマ
シテ自分達ガ考ヘ、又度々申シテ居ルコト
ヲ茲ニ附加ヘテ置キマスト、所謂實行豫算
ナルモノハ憲法上ノ意義ニ於ケル豫算デハ
ナイ、國ノ豫算ハ一アーテー二ナイン、法律論
ト致シマシテハ、成立豫算ノ外ニ政府ガ自
由ニ豫算ヲ編成改定スルコトハ出來マセ
ヌ、所謂實行豫算ナルモノハ、豫算ヲ實行
スルニ當リマシテ、政府部内ニ於テ定メマ

ノ公議ノレバナイ場合ニ於キシテヨリ
即チ經費節約ト云フコトハ、大正二年、大正十
二年、大正十三年度ニ其前例ガアル所デア
リマス、昭和四年ノ實行豫算ニ付テ、最モ
アノ場合ニ議論ノ多カツタ點ハ、豫算ノ款或
ハ項ノ金額全部ヲ支出セザルモノト定メタ
コトニアツカコトト考ヘテ居リマスガ、併
ナガラ是モ前例ニ依リマスト豫算ノ項ノ金
額全部ヲ支出セザルコトト……支出シナイン
ハ四ツアリマス、昭和四年度ニ於キマシテ
ハ二十四件アリマシテ、比較的多量ニ上ヲテ
ニ於テハ四ツ、大正十二年度實行豫算ニ於
テハ十一件、大正十三年度實行豫算ニ於テ
ハ四ツアリマス、之ヲ要シマスニ政府ガ豫
考ヘテ居リマス、之ヲ要シマスニ政府ガ豫
算ノ範圍内ニ於テ經費節約ノ趣意ヲ以テ實
行計畫ヲ立ツルコトハ、法律論トシテハ何
等差支ナイト云フコトハ皆人ノ認メテ居ル
所ト考ヘテ、又學者ノ意見ヲ調べテ見マシ
テモ、左様ナコトヲ我々ハ思付カルノデア
リマス、又只今申シマスル如ク外國ノ例ニ
微シマシテモ是モアリマス、又我國ノ先例
ニ於キマシテモ只今説明スルヤウナコトガ
アリマスノデ、我々ハ左様ナ法理論、左様
ナ先例ニ依テ實行豫算ヲ拵ヘテ居ル次第
デアリマスカラ御承知ヲ願ヒマス

○桑山鐵男君演壇ニ登る

「桑山鐵男君演壇ニ登る」

答辯ヲ賜ハリマシテ、深ク感謝イタシマス、御答辯ヲ戴キマシタコトニ付キマシテハ感謝イタシマスルガ、御答辯ノ内容ハ、私が御願ヒ申上ダマシタ政府ノ解釋ヲ正當ナリトスル理由及ビ法律上ノ根據ト云フコトニ付キマシテハ遺憾ナガラ十分ニ御説明ヲ戴クコトガ出来ナカツノデアリマス、只今ノ御答辯ハ要約イタシマスレバ、前回ニ幣原總理大臣代理、前議會ニ於キマシテ濱口總理大臣ノ仰セラレタ其御言葉ト大體ニ於テ一致イタシテ居ルカト考ヘルノデアリマス、殊ニ憲法六十四條第二項ノ款項ノ金額ヲ超過シ又ハ豫算外ニ支出アリタルトキハ云々ヲ援用イタサレマシテ、此制限ヲ受ケル以外ハ政府ハ豫算ノ款項ノ金額ノ全額ヲ削ヲテモ宜イ、一部ヲ削ヲテモ宜イ、目的ヲ達成不能ニスルコトモ政府ノ任意デアルト云フ御言葉、竝ニ大正二年、十二年、十三年ニ先例ガアツタ、斯様ナ仰セ、何レモ皆濱口總理大臣又ハ幣原總理大臣代理ノ仰セノ通りデアリマシテ、私が御願ヒ申上ダマシタノハ、款項ノ金額ヲ超過シ云々ノ六、四條第二項ハ政府ノ解釋ノ如キ解釋ヲ結論セシムモノデハナイト云フコトヲ、御願ヒ申上ダマシタ、其以外ニ政府トシテ政府ノ解釋ヲ正當トスル理由及ビ根據ヲ御示シ戴キタイト云フコトヲ御願ヒ申上ダタノデアリマス、勿論豫算ハ豫算デアリマス、只今大藏大臣ハ不用額ヲ生ズルコトモアルデヤナカト仰セデゴザイマス、其通りデアリマス、豫算ハ豫算デアッテ見積リデアリテハ、ソコニ金額ノ不用ナモノガ生ジテ參ノルハ是ハ當然デアリマス、或ハ豫算ニ計

能、例へバ或ル土地ヲ買フト云フコトガ豫算ノ範圍内トカ申シマスルノハ豫算ニ掲ゲ
テ、如何ニ政府ト雖モ所有者が賣ラヌト云
フ土地ヲ公用徵收ノ場合ハ別デアリマス
ガ、私法上ノ手續ニ依リマシテ買收スルコ
トハ出來マセヌ、出來ナケレバ實行不能ニ
ナル、不能ニナレバ不用額ガ生ジテ來ル、
是ハ條理當然ノ結果デアリマス、又必
要……豫算編成當時ニ於キマシテハ或ル事
項ヲ國家トシテ施設イタサナケレバナラヌ
ト考ヘテ豫算ヲ要求イタシ、成立イタシマ
シタ、其事項ガ實際ニラ實行スルヲ必要トシ
ナイ場合即チ必要ノ消滅スルニ至ラ場合
モアリ得ル、一例ヲ申上ダマスレバ或ル裁
判所ヘテ豫算ヲ要求イタシ、成立イタシマ
シタ、其事項ガ實際ニラ實行スルヲ必要トシ
ナイ場合即チ必要ノ消滅スルニ至ラ場合
廢止セラレタト云フコトニナリマスレバ
裁判所ノ廳舎ハ建築スル必要ハナクナック、
建築ノ必要ガナクナックガ故ニ茲ニ豫算ニ
不用額ヲ生ジテ參タ、斯ノ如キコトハ條理
當然ノ結果デアル、是アルガ故ニ政府ハ豫
算ノ目的ヲ達成シナイデ宜ノデアル、使
ハナイノハ自由デアルト云フ結果ハ生レナ
イカト考ヘルノデアリマス、又豫算ノ金額
ニ於キマシテハ、或ル事項、豫算ニ計上サ
レテ居リマスル或ル目的ヲ達成イタシマス
ル爲ニ必要ナリト議會ノ認メタル金額デア
リマス、其金額ノ限度ニ於キマシテ目的ガ達
成出來マスルナラバ是ハ結構ナコトデアル、
剩スハ勿論ノコト望マシイコトデアラウカ
ト思フノデアリマス、斯様ナ場合ニ又剩餘
金ガ生ジテ來ル、不用額ガ生ジテ來ル、是
モ當然、普通ニ豫算ノ範圍内トカ、或ハ定
額ノ範圍内トカ申シマスルノハ豫算ニ掲ゲ

左様ナコトハ豫算ト云フモノガ議會ノ協賛ヲ經マシテ成立シタモノデアル以上ハ、憲法六十回條ニ依リマシテ政府トシテハ目的ヲ必ス遂行シナケレバナラヌ義務ヲ有スルモノデアルト考ヘルノデアリマス、私ノ申上ダマスル意味ニ於キマシテ、或ル事項或ル施設ヲ達成イタシマスルガ爲ニ、其金額ヲ最高限度ト致シマシテ、其範圍内ニ於テ政府が目的ヲ達成スルノ努メル、是ニ結構ナコトデアル、此範圍内ト云フノガ普通ニ申シマスル豫算ノ範圍内ト申シマスルコトデアリマシテ、政府ノ所謂總額ノ範圍内ト云フ意味ニ於キマシテ、豫算ノ範圍内ト仰セラレルノハ、範圍内ト云フ言葉ヲ、失禮ナ申分デアリマスルガ、不當ニ擴充シテ御用ヰニナシテ居ルカト私トシテハ考ヘルノデアリマス、其實行豫算ト云フコトヲ仰セニナリマシタ、大藏大臣ノ仰セノ通り實行豫算ハ普通ノ場合ニ於キマシテハ豫算ガ不成立ニナシテ、前年度ノ豫算ガ施行サレマシテ、其施行豫算ノ範圍内ニ於キマシテ、政府ガ作リマスル實行豫算或ヘ標準豫算、斯様ナモノ申スノカ普通ノ意味ニ於キマスル實行豫算ト云フコトデアラウカト考ヘルノデアリマスルガ、或ハソレヲ成立豫算ノ範圍ニ於キマシテ、豫算ノ目的ヲ達成スルガ爲ニ豫算使用ノ計畫、實行ノ計畫、之ヲモ實行豫算ト申スコトモアリ得ルト思ヒマス、是ハ承認イタシマス、併シ政府ノ昭和四年度ニ於テ爲サレマシタ實行豫算或ヘ五年度ニ於テモ作ラレタ其實行豫算、六年度ニ於キマシテモ、歳入ガ減退イタシタナラバ、又ヤラウト仰セラレル、其實行豫算

ハ、斯ノ如キ意味ニ於ケル實行豫算デハナ
イノデアリマス、千百ノ目的ノ中デ或ルモ
ノヘ之ヲ實行シ、或ルモノハ之ヲ不實行ニ
スル、斯ノ如キ豫算ノ實行計畫ト云フモノ
ハ無イヂヤナイカト私ハ考ヘテ居リマス、
カルガ故ニ政府ノ仰セラレル實行豫算ナル
モノハ、現ニ政府部内ニ於テ、豫算使用ノ
計畫トシテ、成立豫算ノ範圍内ニ於テ作リ
マスル其モノデハナイ、成立豫算ノ範圍内
ニ於テ作リマス豫算使用計畫ハ、豫算ヘ計
上サレテ居リマスル目的ヲ達成イタスト云
フコトガ條件ニナツテ居ル、其目的ヲ實行シ
ナイト云フ、云フヤウナ實行豫算ト云フモノ
ハ無イヂヤナイカト思ヒマス、昭和四年
度ノ實行豫算ハ斯ノ如キ意味ニ於ケル實行
豫算デアルノデアリマスルガ故ニ、憲法違
反デアルト私ハ申上ゲルノデアリマス、又
豫算ハ一ニシテ二ナシト只今モ仰セラレマ
シタ、前議會ニ於キマシテ瀬口總理大臣
仰セラレマシタ、幣原總理大臣代理ヘ豫算
ハ嚴然トシテ存在スル、政府ハ豫算ニ對シ
テ改竄ヲ加ヘタ覺ハナイ、斯様ニ仰セラレ
マシタ、豫算ハ先般モ申上ゲマシタ通り、
或ル年度ニ於テ國家が如何ナル事項ヲ實行
スペキヤ、如何ナル事項ヲ達成スペキヤ、
如何ナル施設ヲ為スベキヤト云フコトヲ定
メマシタモノガ豫算デアリマス、其豫算ノ
ニナツテ、ソレニ依ッテ國家ノ歳入歳出ヲ御
經理ニナツト云フナラバ、是ハ即チ豫算
ヲ實行スルト云フヤウナモノヲ別ニ御作リ
ハ、一ニシテ二アルベカラザル豫算ヲニア
ラシメタコトニ相成ルノデハナイカ

ノデアラウカト私トシテハ考ヘルノデアリ
マス、若シ是ガ改竄デナイ又變更デナイト
仰セラレルナラバ、豫算ト云フモノハ、目
的ト此金額ノ外ニハ無イ、其目的ヲ動カシ
金額ヲ動カシテ、サウンシテ是ガ改竄デナイ、
變更デナイト仰セラレルナラバ、政府ノ仰
セラレル改竄トカ變更トカト云フコトハド
ウ云フ意味デアルカト云フコトヲ飼翁ヒシ
テ見タイト思フノデアリマス、斯ノ如ク政
府ノ仰セニナリマシタ所ハ豫算ハ一定ノ目
的ヲ定メテ、サウシテ限度ヲ定メマスモノ
デアル、其範圍内ニ於テハ政府ハ勝手ニ其
目的ヲ削ルコトモ自由デアル、斯様ナ仰セ
デアリマスガ、立派ニ又明瞭ニ憲法第六十
四條ニ違反スルモノト斷定シテ差支ナイヤ
ト考ヘルノデアリマス、憲法第六十四條ハ
先般モ申上ゲマシタ如ク、國家ノ歳入歳出
ハ豫算ヲ以テ定メロ、又國家ノ歳入歳出ハ
議會ノ協賛ヲ經ロ、經タルモノナルヲ要ス、
斯様ノコトヲ定メテ居リマス故ニ、其豫算
ナルモノハ千百ノ目的ニ付キマシテ、千百
ノ施設ニ付キマシテ、或ル年度ニ於テ國家
トシテ爲スキ事項ヲ列舉サレタモノガ豫
算デアルノデアリマス、其中ノ或ルモノヲ
ヤリ或ルモノヲヤラナイト云フコトニナリ
マスレバ、憲法第六十四條ニ違反イタシタ
コトニ明瞭ニ相成ルカト考ヘマス、若シ政
府ノ斯ウ云フ一定ノ限度ト仰セラレル其意
義ガ、個々ノ目的、個々ノ施設ニ付テノ意
味デアルト考ヘラレマスナラバ、是ハ豫算
ニ必要ナ金額ヲ定メタモノバカリデヘナナイカ、
或ハ殊更ニ誤解ナサレタ解釋デナイカト考
ヘマス、豫算ハ個々ノ目的ト之ヲ達成スル
ニ必要ナ金額ヲ定メタ所ハカリデヘナナイカ、

イ、或る年度ニ於テ國家トシテ爲スペキ事項ノ全部ヲ定メタモノデアリマス、私ハ只今ノ大藏大臣ノ御言葉ハマサカ個々ノ目的茲ニ之ヲ達成スルニ必要ナ金額其限度ニ於いてト、斯ウ云フ意味デ仰セラレタコトトハ考ヘマセヌガ、若シ左様デアタナラバ、ソレハ豫算ト云フモノニ付テ御考ヘ達ヒノラレルノデアリマス、要スルニ私ノ考ト致シマシテハ、憲法第六十四條ニ依リマシテ、豫算ハ政府ガ國家ノ政務ヲ執行スルニ當リマシテ、必ズ之ニ準據シナケレバナラヌモノデアル、政府ノ御解釋ハ豫算ハ政府ガ之ヲ使用スル權能ヲバ與ヘラレルガ、使用スル義務ヲ負擔スルモノデハナイ、斯様ナ仰セデアリマス、歳出豫算ノコトニ付キマシテハ、正面衝突ヲ致シマシテ、茲ニ二ツノ解釋ガ残シテ參々タコトニ相成ル、私ハ此際政府ニ御尋ネ申上ゲテ見タイト思ヒマス、先般モ申上ゲマシタ如ク、我ガ帝國憲法ハ、明治天皇ガ國民ノ忠君愛國ノ國民性ニ御信賴遊バサレテ他國ニ比類ナキ此光榮アル光輝アル憲法ヲ賜ハツタノデアリマス、此憲法ニ依リマシテ、茲ニ正面衝突シテ相容レザルニツノ解釋ガ残リマシタコトハ、憲法ノ尊嚴ヲ傷ケル魔ガアルカト考ヘルノデアリマス、殊ニ問題ハ議會ノ豫算協督權ノ意義、將來幾千萬年、天地ト共ニ窮リナキ我ガ帝國ノ議會ノ豫算ノ協督權ノ意義ニテ容易ニ之ヲ其儘ニ放置スベキモノデハナカラウカト考ヘルノデアリマス、先般モ議員諸公ノ特ニ此問題ニ付テノ御考慮ヲ御願ヒ申上ダマシタノハ、此故デゴザイマス、

私へ此際政府ニ極メテ簡單ニ御尋不致シテ見タイト思フノデアリマスガ、政府ノ御解釋ハ豫算ハ政府ガ使用ノ權能ヲ與ヘラレ、使用ノ義務ヲ負ヘサレルモノデナイト云フ政府ノ御解釋モ一ツノ解釋デアリマス、私竝ニ他ノ方々ノ解釋ハ、豫算ハ政府ガ之ヲ有權的ノ解釋デハナイノデアリマス、其通り執行シナケレバナラヌ義務ガアルモノデアルト云フ、此解釋モ一ツノ解釋デアリマス、共ニ私ノ解釋デアリマス、公ケノ有權的ノ解釋デハナイノデアリマス、此獨斷ノ解釋、公ケニ何等權威ヲ有セマセヌ此解釋ニ依ヅテ、政府が豫算ノ目的ヲ削リ、款項ヲ削除シ、豫算ノ改竄ヲ行ヒ、變更ヲ强行サレルモノデハナイカト考ヘルノデアリマス、今日ノ法治國ニ於キマシテ、一切ハセラルルノハ、是權力ヲ以チマシテ暴ヲハシキ何モノモ存在ヲ許サナイノデアリマヌ、適法性ヲ有シナケレバナラヌ、其處ニ何等ノ不法モ、或ハ違法モ、若クハ紛ラハシキ何モノモ存在ヲ許サナイノデアリマス、殊ニ今日ノ世相ハ或ハ勞働爭議トカ、或ハ小作爭議トカ、或ハ又甚シキハ學校騷動ニ於テスラ、暴力行爲ノ行ハルト云フ此際ニ於キマシテ、正義ノ象徴デアリ、公正正其モノデアルベキ國家、其國家ノ國務ヲ執行セラル政府ガ獨斷的ノ此解釋ニ依リマシテ、公ケニ何等權威ヲ有セナイ解釋ニ依リマシテ、議會ノ協賛權ヲ廢棄シ、豫算ノ目的達成ヲ不能ニ致サセル如キコトヲサレルノハ、權力ニ依リマシテ暴ヲ强行スルモノデアルト、私ハ考ヘルノデアリマス、モノデアルトニ付キマシテ権密院ニ於テ之ヲ決定ス幸ニ我帝國憲法ニハ権密顧問ナルモノガアリマス、又権密院官制ニ於キマシテ憲法ノ疑義ニ付キマシテ権密院ニ於テ之ヲ決定スルコトニナツテ居ル、政府ハ政府ガ自カラ正

當ナリト主張セラル、其御解釋ヲ、有權的ニ正當ナルモノトシテ肯定セシムルヤウニ必要ナル手續ヲ御取リニナル御考ヘハナイカ、是ガ私ノ御尋ネデアリマス

〔國務大臣井上準之助君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(井上準之助君) 桑山君ノ再度ノ御質問ニ對シテ御答へ致シマスガ、豫算協賛權ノ法律上ノ根據ニ付キマシテハ、先刻私ガ述ベマンタヤウニ憲法第六十四條、其外會計法ノ全般ニ瓦リマシテ見マスト、所謂實行豫算ヲ作リマスコトハ、何等法律上差支ナインミナラズ、數多ノ實例モアルコトデアリマス、政府ハソレニ依テ此勵ギヲ致シテ居リマスト御答へ申上ゲル外ナインデアリマス、尙ホ一つ私ハ附加ヘタイノデアリマスガ、日本ノ會計法ハ、豫算ノ立方ハ歲入ノ見積リヲ致シマス、ソレニ應ジテ歲出ノ見積リヲ致シマシテ豫算ガ出來マスト、外國ノ例、殊ニ英吉利ノ例ノ如キハ歲出ガ減ル、決算ヲシテ歲入缺陷ガアレバ、一時借入金ヲシ、サウシテ増稅ヲスルダケチヤント用意ガ出來テ居ルノデアリマスガ、日本ノ豫算ノ上ニ於キマシテハ、歲入ノ見積リガハッキリ減ル、ソレニ依テ歲出ヲ立テテ行ク、再び歲入ガ減ル、尙再ビソレニ應ジテ歲出ヲ減シテ行カナケレバナラヌ、斯ウ云フヤウナ立テ方ニナッテ居リマステ、決算ヲ致シマシテ不足ガ生ジテ借入金ヲシ、又ソレヲ公債ニ依テ整理スルト云フヤウナコトノ規定ノナイ所ヲ見マシテモ、剩餘金ガナクシテ豫算ノ辻棲ヲ合ハシテ參リマス場合ニハ是ハ日本ノ會計法上デハ、歲入ノ見積リガ減レバ、ソレニ應ジテ歲出

ヲ段々減シテ行クテ、豫算ノ遂行ヲシテ行クト云フコトガ已ムヲ得ナイ歸結デアル、是モツノ桑山氏ニ私ハ答ヘルツノ理由ト考ヘテ居リマスカラ、一つ附加ヘテ御答へ致

シテ置キマス

〔桑山鐵男君演壇ニ登ル〕

○桑山鐵男君 私ハ只今憲法ノ解釋ニ付キマシテ、殊ニ此議會ノ豫算協賛權ノ解釋ニ付キマシテニツノ相容レザル、根本的に相容レザル二ツノ解釋ガアル、其一つノ解釋ニソレガ政府デアル、權力者デアルガ故ニ私ノ解釋ヨリモ何等重味ヲモ、又權限ヲモ有スルモノデハナイ憲法ノ解釋ト致シマシテハ獨斷ノ解釋デアリマシテ、其解釋ニ依リマシテ、サウシテ此議會ノ豫算協議權ヲ蹂躪遊バサレルヤウナコトハ、是ハ權力ニ依ル暴行行為デアル、左様ナルコトヲサレナ

イデ、政府ガ自己ノ解釋ガ正當ナリト御主張レザルヤウナコトハ、其正當ナリト御主張

シテ、其歲出ヲ減スノハ、當然デアルカノ如ク仰セガアリマシタ、歲出ハ或年度ニ於テ國家トシテナスペキ、ナスク必需要シテ參々タカラ歳出ヲ減スノハ、當然デアルカノ如ク仰セガアリマシタ、歲出ハ或年

度ニ於テ國家トシテナスペキ、ナスク必要

トスル事柄デアリマス、其事柄ガ主デアルノニ歲入、即チ歲出ヲ達成スルニ必要ナル手段トモ申スペキ歲入、其歲入ガ減退シテガ故ニ、歲出ヲ節約スル、省クト云フコトハ、主客ヲ顧倒シ、本末ヲ誤シ御意見デアルト考ヘマスル、殊ニ又先程申上ゲマシタ通り此歲出ナルモノハ、歲入豫算ト變りマシテ、歲入ニ付キマシテハ私カラ申上ゲルマデモナク、法令ノ結果生ズルモノデアリマス、豫算ガ歲入ニ對シテ拘束力ヲ及ボ

付キマシテハ實ハ時間ノ關係モアリマスノ寧ロ歲入問題ニ付テノ御話ガアリマシタノデアリマス、私ト致シマシテハ歲入ノ點ニ

付キマシテハ實ハ時間ノ關係モアリマスノニ省略イタシタノデアリマス、大藏大臣ガ

ト思ヒマス、豫算ハ歲入ヲ見テ歲出ヲ決メ

ル、斯様ナ仰セデアリマシタ、私ノ考ヘ方

ト致シマシテハ、國ガ生存發達ヲ致シテ行キマスル上ニ、何ガ其年ニ於テ必要デアル

カト云フコトガ先決問題デアル、國家トシテ此年度ニ如何ナルコトヲ爲スベキカト云

フコトガ先決問題デアル、即チ歲出ガ先キニ決マリ、其決シタ歲出ヲ「カバー」スル、支辨スルニ足ル歲入ガアルカドウカト云フコ

トハ、第二ノ問題デアル、若シ歲入ガ不足デアルナラバ、憲法六十一条第三項ニ依テ

借入金ヲナサルモ宜シ、公債ヲ發行ナサルモ宜シイ、如何様ニモ國家トシテ必要ナル、

生存上必要ナル其歲出ヲ支辨スルニ足ル歲入ヲ得ル途ハアルノデアリマス、歲入ガ減退シテ參々タカラ歳出ヲ減スノハ、當然デアルカノ如ク仰セガアリマシタ、歲出ハ或年

度ニ於テ國家トシテナスペキ、ナスク必需要シテ參々タカラ歳出ヲ減スノハ、當然デアルカノ如ク仰セガアリマシタ、歲出ハ或年

ス、私ガ第二ニ伺ヒマシタ、第二ノ質問デアリマスル政府ノ御解釋ヲ、正當ナリト御主張相成リマスル其御解釋ヲ、有權的ニ正當ナリト憲法上ノ機關ニ依テ肯定セシム

ル思召ハナイカドウカ、此點ヲ御伺ヒ申上ゲマス

〔國務大臣井上準之助君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(井上準之助君) 桑山君ニ御答

ヘ致シマスガ、政府ノ懷イテ居ル豫算協賛權ニ對スル解釋ト、桑山氏ノ解釋ト違フ、

ソレガ政府デアル、權力者デアルガ故ニ私ノ解説ヨリモ何等重味ヲモ、又權限ヲモ有スルモノデハナイ憲法ノ解説ト致シマシテ

ハ獨斷ノ解説デアリマシテ、其解釋ニ依リマシテ、サウシテ此議會ノ豫算協議權ヲ蹂

躪遊バサレルヤウナコトハ、是ハ權力ニ依ル暴行行為デアル、左様ナルコトヲサレナ

イデ、政府ガ自己ノ解説ガ正當ナリト御主張レザルヤウナコトハ、其正當ナリト御主張

シテ肯定セシムルヤウナ方法ヲ御執リニナ

ル御考ガナイカドウカ、御尋ネヲ致シマシ

タ、ソレニ對シマシテハ大藏大臣ノ御答辯

ヲ戴キマスコトガ出來ナカタデアリマス、

付キマシテハ實ハ時間ノ關係モアリマスノ

デ、主タル點ガ歲出ノ點デアリマシタガ故

ス、私ガ第二ニ伺ヒマシタ、第二ノ質問デアリマスル政府ノ御解釋ヲ、正當ナリト御主張相成リマスル其御解釋ヲ、有權的ニ正當ナリト憲法上ノ機關ニ依テ肯定セシム

ル思召ハナイカドウカ、此點ヲ御伺ヒ申上ゲマス

〔國務大臣井上準之助君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(井上準之助君) 桑山君ニ御答

ヘ致シマスガ、政府ノ懷イテ居ル豫算協賛權ニ對スル解釋ト違フ、

ソレガ政府デアル、權力者デアル、從テ此解釋ノ相反シ

テ居ルコトヲ有權的ニ肯定セシメルダケノ

正當ノ手段、方法ヲ執ル考ハナイカ、斯ウ

云フ御尋デアリマスガ、先刻カラ度々繰返シテ申上ゲマス如ク、我々ハ今日マデ執リ

テ居ルコトヲ有權的ニ肯定セシメルダケノ

正當ノ手段、方法ヲ執ル考ハナイマシテ、是

ガ間違テ居ナイ、正當デアルトスウ考ヘテ

シテ申上ゲマス如ク、我々ハ今日マデ執リ

テ居ルコトヲ有權的ニ肯定セシメルダケノ

正當ノ手段、方法ヲ執ル考ハナイマシテ、是

ス、私ガ第二ニ伺ヒマシタ、第二ノ質問デアリマスル政府ノ御解釋ヲ、正當ナリト御主張相成リマスル其御解釋ヲ、有權的ニ正當ナリト憲法上ノ機關ニ依テ肯定セシム

ル思召ハナイカドウカ、此點ヲ御伺ヒ申上ゲマス

〔國務大臣井上準之助君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(井上準之助君) 桑山君ニ御答

ヘ致シマスガ、政府ノ懷イテ居ル豫算協賛

權ニ對スル解釋ト違フ、

ソレガ政府デアル、從テ此解釋ノ相反シ

テ居ルコトヲ有權的ニ肯定セシメルダケノ

正當ノ手段、方法ヲ執ル考ハナイマシテ、是

ガ間違テ居ナイ、正當デアルトスウ考ヘテ

シテ申上ゲマス如ク、我々ハ今日マデ執リ

テ居ルコトヲ有權的ニ肯定セシメルダケノ

正當ノ手段、方法ヲ執ル考ハナイマシテ、是

ス、私ガ第二ニ伺ヒマシタ、第二ノ質問デアリマスル政府ノ御解釋ヲ、正當ナリト御主張相成リマスル其御解釋ヲ、有權的ニ正當ナリト憲法上ノ機關ニ依テ肯定セシム

ル思召ハナイカドウカ、此點ヲ御伺ヒ申上ゲマス

ス、私ガ第二ニ伺ヒマシタ、第二ノ質問デアリマスル政府ノ御解釋ヲ、正當ナリト御主張相成リマスル其御解釋ヲ、有權的ニ正當ナリト憲法上ノ機關ニ依テ肯定セシム

ル思召ハナイカドウカ、此點ヲ御伺ヒ申上ゲマス

〔國務大臣井上準之助君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(井上準之助君) 桑山君ニ御答

ヘ致シマスガ、政府ノ懷イテ居ル豫算協賛

權ニ對スル解釋ト違フ、

ソレガ政府デアル、從テ此解釋ノ相反シ

テ居ルコトヲ有權的ニ肯定セシメルダケノ

正當ノ手段、方法ヲ執ル考ハナイマシテ、是

ガ間違テ居ナイ、正當デアルトスウ考ヘテ

シテ申上ゲマス如ク、我々ハ今日マデ執リ

テ居ルコトヲ有權的ニ肯定セシメルダケノ

正當ノ手段、方法ヲ執ル考ハナイマシテ、是

ス、私ガ第二ニ伺ヒマシタ、第二ノ質問デアリマスル政府ノ御解釋ヲ、正當ナリト御主張相成リマスル其御解釋ヲ、有權的ニ正當ナリト憲法上ノ機關ニ依テ肯定セシム

ル思召ハナイカドウカ、此點ヲ御伺ヒ申上ゲマス

ス、私ガ第二ニ伺ヒマシタ、第二ノ質問デアリマスル政府ノ御解釋ヲ、正當ナリト御主張相成リマスル其御解釋ヲ、有權的ニ正當ナリト憲法上ノ機關ニ依テ肯定セシム

ル思召ハナイカドウカ、此點ヲ御伺ヒ申上ゲマス

〔國務大臣井上準之助君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(井上準之助君) 桑山君ニ御答

ヘ致シマスガ、政府ノ懷イテ居ル豫算協賛

權ニ對スル解釋ト違フ、

ソレガ政府デアル、從テ此解釋ノ相反シ

テ居ルコトヲ有權的ニ肯定セシメルダケノ

正當ノ手段、方法ヲ執ル考ハナイマシテ、是

ガ間違テ居ナイ、正當デアルトスウ考ヘテ

シテ申上ゲマス如ク、我々ハ今日マデ執リ

テ居ルコトヲ有權的ニ肯定セシメルダケノ

正當ノ手段、方法ヲ執ル考ハナイマシテ、是

ス、私ガ第二ニ伺ヒマシタ、第二ノ質問デアリマスル政府ノ御解釋ヲ、正當ナリト御主張相成リマスル其御解釋ヲ、有權的ニ正當ナリト憲法上ノ機關ニ依テ肯定セシム

ル思召ハナイカドウカ、此點ヲ御伺ヒ申上ゲマス

ス、私ガ第二ニ伺ヒマシタ、第二ノ質問デアリマスル政府ノ御解釋ヲ、正當ナリト御主張相成リマスル其御解釋ヲ、有權的ニ正當ナリト憲法上ノ機關ニ依テ肯定セシム

ル思召ハナイカドウカ、此點ヲ御伺ヒ申上ゲマス

〔國務大臣井上準之助君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(井上準之助君) 桑山君ニ御答

ヘ致シマスガ、政府ノ懷イテ居ル豫算協賛

權ニ對スル解釋ト違フ、

ソレガ政府デアル、從テ此解釋ノ相反シ

テ居ルコトヲ有權的ニ肯定セシメルダケノ

正當ノ手段、方法ヲ執ル考ハナイマシテ、是

ガ間違テ居ナイ、正當デアルトスウ考ヘテ

シテ申上ゲマス如ク、我々ハ今日マデ執リ

テ居ルコトヲ有權的ニ肯定セシメルダケノ

正當ノ手段、方法ヲ執ル考ハナイマシテ、是

ス、私ガ第二ニ伺ヒマシタ、第二ノ質問デアリマスル政府ノ御解釋ヲ、正當ナリト御主張相成リマスル其御解釋ヲ、有權的ニ正當ナリト憲法上ノ機關ニ依テ肯定セシム

ル思召ハナイカドウカ、此點ヲ御伺ヒ申上ゲマス

ス、私ガ第二ニ伺ヒマシタ、第二ノ質問デアリマスル政府ノ御解釋ヲ、正當ナリト御主張相成リマスル其御解釋ヲ、有權的ニ正當ナリト憲法上ノ機關ニ依テ肯定セシム

ル思召ハナイカドウカ、此點ヲ御伺ヒ申上ゲマス

〔國務大臣井上準之助君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(井上準之助君) 桑山君ニ御答

ヘ致シマスガ、政府ノ懷イテ居ル豫算協賛

權ニ對スル解釋ト違フ、

ソレガ政府デアル、從テ此解釋ノ相反シ

テ居ルコトヲ有權的ニ肯定セシメルダケノ

正當ノ手段、方法ヲ執ル考ハナイマシテ、是

ガ間違テ居ナイ、正當デアルトスウ考ヘテ

シテ申上ゲマス如ク、我々ハ今日マデ執リ

テ居ルコトヲ有權的ニ肯定セシメルダケノ

正當ノ手段、方法ヲ執ル考ハナイマシテ、是

ス、私ガ第二ニ伺ヒマシタ、第二ノ質問デアリマスル政府ノ御解釋ヲ、正當ナリト御主張相成リマスル其御解釋ヲ、有權的ニ正當ナリト憲法上ノ機關ニ依テ肯定セシム

ル思召ハナイカドウカ、此點ヲ御伺ヒ申上ゲマス

ス、私ガ第二ニ伺ヒマシタ、第二ノ質問デアリマスル政府ノ御解釋ヲ、正當ナリト御主張相成リマスル其御解釋ヲ、有權的ニ正當ナリト憲法上ノ機關ニ依テ肯定セシム

ル思召ハナイカドウカ、此點ヲ御伺ヒ申上ゲマス

〔國務大臣井上準之助君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(井上準之助君) 桑山君ニ御答

ヘ致シマスガ、政府ノ懷イテ居ル豫算協賛

權ニ對スル解釋ト違フ、

ソレガ政府デアル、從テ此解釋ノ相反シ

テ居ルコトヲ有權的ニ肯定セシメルダケノ

正當ノ手段、方法ヲ執ル考ハナイマシテ、是

ガ間違テ居ナイ、正當デアルトスウ考ヘテ

シテ申上ゲマス如ク、我々ハ今日マデ執リ

テ居ルコトヲ有權的ニ肯定セシメルダケノ

正當ノ手段、方法ヲ執ル考ハナイマシテ、是

ス、私ガ第二ニ伺ヒマシタ、第二ノ質問デアリマスル政府ノ御解釋ヲ、正當ナリト御主張相成リマスル其御解釋ヲ、有權的ニ正當ナリト憲法上ノ機關ニ依テ肯定セシム

ル思召ハナイカドウカ、此點ヲ御伺ヒ申上ゲマス

ス、私ガ第二ニ伺ヒマシタ、第二ノ質問デアリマスル政府ノ御解釋ヲ、正當ナリト御主張相成リマスル其御解釋ヲ、有權的ニ正當ナリト憲法上ノ機關ニ依テ肯定セシム

ル思召ハナイカドウカ、此點ヲ御伺ヒ申上ゲマス

〔國務大臣井上準之助君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(井上準之助君) 桑山君ニ御答

ヘ致シマスガ、政府ノ懷イテ居ル豫算協賛

權ニ對スル解釋ト違フ、

ソレガ政府デアル、從テ此解釋ノ相反シ

テ居ルコトヲ有權的ニ肯定セシメルダケノ

正當ノ手段、方法ヲ執ル考ハナイマシテ、是

ガ間違テ居ナイ、正當デアルトスウ考ヘテ

シテ申上ゲマス如ク、我々ハ今日マデ執リ

テ居ルコトヲ有權的ニ肯定セシメルダケノ

正當ノ手段、方法ヲ執ル考ハナイマシテ、是

ス、私ガ第二ニ伺ヒマシタ、第二ノ質問デアリマスル政府ノ御解釋ヲ、正當ナリト御主張相成リマスル其御解釋ヲ、有權的ニ正當ナリト憲法上ノ機關ニ依テ肯定セシム

シク論議イタシタ此問題デアリマス、殊ニ
況ヤ先刻モ申上ゲマシタ通り、將來幾千万
年天壤ト共ニ窮リナキ我が日本帝國ノ、其
帝國議會ノ豫算協賛權ノ意義ノ確立ト云フ
コトニ付キマシテハ、公明ナル政治ヲ御主
張遊バサル濱口内閣トシテ、發言者ガ一
微々タル議員デアルト云フノデ、左様ニ簡
單ニ御取扱ヒニナルベキモノカト考ヘルノデ
題ノ重要性ニ付キマシテ、今少シク慎重ノ
御考慮アツテ然ルベキモノカト考ヘルノデ
アリマスガ、大藏大臣ガ左様ナ考ハナイト
云フ、政府ヲ代表シテノ御答辯ガアツタ以上
ハ已ムヲ得マセヌ、政府トシテハ左様ナ思
召ハナイモノト了解イタスヨリ外ハナイン
デアリマス、只今序デアリマスカラ申上ゲ
マスルガ、先例ガアル、此事ニ付キマシテ
ハ前回ニ既ニ申上ゲタ、再び繰返ス必要モ
ナイノデアリマスルガ、先例ト云フコト
ハ大正二年竝ニ十二年、此二回ノ先例ガア
ル、併シ先例ト云フコトハ或違反行爲ヲシ
タコトト、ソレニ對スル制裁、之ヲ併セテ
御覽ニナルノハ間違デス、違反行爲ヲスル
ノハ政府デアル、其違反行爲ニ對シテ責任
ヲ問フノハ國民デアリマス、政府ハ被告デ
アツテ國民ハ裁判官デアル、其違反行爲ヲナ
ガル政府ガ、前ニ裁判官ガ罪トシナカッタ
ガ故ニ、又罪トナラヌノデアラウト云フ考
ヲ以テ、先例云々ト言ハレルノハ明ニ間違
ヒ、刑罰法規ノ關係ヲ御覽下サレバ簡單明
瞭ニ分ル、或男ガ殺傷行爲ヲシタ、或八年
齡トカ其他ノ點ニ於キマシテ無罪ニナル場
合モアリマセウ、或ハ盜犯防上法ニ依リマ
シテ無罪ニナル場合モアリマセウ、色ミノ
場合モアリマスルガ、ソレダカラト云フテ外
ノ者ガ曾テ無罪デアツカラト云フノデ、人

ニ殺傷行爲ヲ加ヘテ差支ナイト云フ結論ハ
豫算ノ款項ノ金額ヲ削リ、豫算ノ目的ヲ達
成不能ニシタト云フ其違反行爲ハ、決シテ
行爲ニ對シテ當時國民ガ不問ニ付シタト云
ブ故ヲ以チマシテ、昭和四年ニ於キマシテ
豫算ノ款項ノ金額ヲ削リ、豫算ノ目的ヲ達
成不能ニシタト云フ其違反行爲ハ、決シテ
正當ナモノニセオ法ノモノニモ相成ラズノ
デアリマス、況ヤ昭和四年度ノ實行豫算ニ
於キマシテ、前回申シタ如ク國內各方面ニ
對シマシテ、政府ノ違憲ヲ責ムル聲ガ囂々
タルモノガアツタノデアリマス、先例云々ト
云フヤウナコトハ、政府ガ之ニロヲ藉リテ
昭和四年度ニ於テ、或ハ五年度ニ於テ或ハ
六年度ニ於キマシテモ爲サラウカモ知レマ
セヌ、歳出ノ整理ト云フコトヲ適法ナルモ
ノノ如ク御説明遊バセレヤウト云フノハ、
御考ヘ達ヒデハナイカト考ヘルノデアリマ
ス、何レニ致シマシテモ私ノ申上ゲマシタ
コトハ政府トシテハ御採用相成ラヌ、斯ノ
如キ重要ナルモノ、將來ノ爲ニ政府トシ
テ……政治ノ公明ヲ主張サレル政府ト致シ
第一條 本法ハ耕作ヲ目的トスル土地ノ
賃貸借及永小作ニ之ヲ適用ス
本法ニ於テ小作地ト稱スルハ前項ノ賃
貸借ノ目的タル土地ヲ謂ヒ永小作地ト
稱スルハ前項ノ永小作ノ目的タル土地
ヲ謂フ

第二條 賃借人ガ小作地ニ附隨シテ宅地、
採草地、稻架樹、建物其ノ他ノ物ノ使用
又ハ收益ヲ爲ス權利ヲ有スル場合ニ於
テノ將來ノ爲メ、幾千万年ノ後迄ノ爲ニ、此
際勢ヒ御決定ニ相成ルノガ適當デナイカト
考ヘマシタガ故ニ、御伺ヒ申上ダタノデア
リマス、ソレニ對シマシテハ斯カル意思ハ
ナイ、斯ウ云フ御答辯デアリマス、誠ニ遺
憾ナガラ已ムヲ得ナイコトト思ヒマス此上
ハ前回ニモ申上ダマシタ通り、帝國議會ソ
レ自身ト致シマシテ、自ラ議會ノ豫算協賛
權ノ意義ノ確立ト云フコトニ努力イタス外
ノ期間内ニ買取ノ協議ノ申出アラバ之
ヲ解除スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 第九條乃至第十一條、第十三條、
第十四條、第十七條前段、第十八條、
第十九條、第二十四條、第四十二條及
第七十四條ノ規定ニ異ル小作條件ニシ
テ賃借人又ハ永小作人ニ不利ナルモノ

ハシタイト考ヘマス、是デ私ノ質問ヲ終リ
ハシタイト考ヘマス、是デ私ノ質問ヲ終リ
マス

○副議長(公爵近衛文麿君) 日程第一、小
作法案政府提出、衆議院送付、第一讀會、因
町田農林大臣

小作法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因
テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和六年三月二十日

貴族院議長公爵德川家達殿

(小字及一ハ衆議院ノ修正ナリ)

小作法案

衆議院議長 藤澤幾之輔

小作法

第一章 總則

第一條 本法ハ耕作ヲ目的トスル土地ノ
賃貸借及永小作ニ之ヲ適用ス

本法ニ於テ小作地ト稱スルハ前項ノ賃
貸借ノ目的タル土地ヲ謂ヒ永小作地ト
稱スルハ前項ノ永小作ノ目的タル土地
ヲ謂フ

第二章 小作地ノ賃貸借ハ其ノ登記ナキ
項ノ申立アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三章 小作地賃貸借ノ效力

第五條 小作地ノ賃貸借ハ其ノ登記ナキ
モ小作地ノ引渡アリタルトキハ爾後其
ノ小作地ニ付物權ヲ取得シタル者ニ對
シ其ノ效力ヲ生ズ

第六條 小作地ノ賃貸借權ハ賃貸人ノ承諾
アルニ非ザレバ之ヲ讓渡スコトヲ得ズ
但シ別段ノ慣習アルトキハ其ノ慣習ニ
從フ

第七條 賃貸人ガ其ノ小作地又ハ永小作
地ヲ賣却セントスルトキハ命令ノ定ム
ル所ニ依リ賃借人ニ對シ期間ヲ定メ其
ニ期間内ニ買取ノ協議ノ申出アラバ之
ニ應ズル旨ヲ通知スルコトヲ要ス

第三十四條ノ法人又ハ團體ガ前項ノ通

知ヲ受ケタル場合ニ於テ買取ノ意思ナキトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ遲滞ナク其ノ小作地ヲ耕作スル團體員又ハ住民ニ對シ前項ノ通知ニ基キ賃貸人ト直接買取ノ協議ヲ爲スベキ旨ノ通知ヲ爲シ且其ノ旨ヲ賃貸人ニ通知スルコトヲ要ス
賃貸人ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ前項ノ團體員又ハ住民ノ買取ノ協議ノ申出ニ應ズルコトヲ要ス
第八條 前條第一項ノ期間内ニ買取ノ協議ノ申出ナキトキ又ハ協議申出後一月内ニ協議調ハザルトキハ賃貸人ハ其ノ小作地又ハ永小作權ヲ他ニ賣却スルコトヲ得前條第一項ノ期間満了前ト雖モ前條ノ通知ヲ受ケタル者買取ノ意思ナキ旨ヲ表示シタルトキ亦同ジ
第九條 第三章 小作地賃貸借ノ終了
第十條 當事者が小作地ノ賃貸借ノ期間ヲ定メザリシトキハ當事者ハ民法第六百十七條第二項ノ規定ニ拘ラズ何時ニテモ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得
小作地ノ賃貸借ハ前項ノ解約申入後一小作地ノ賃貸借ニ因リテ終了ス
第十條 前條又ハ第十四條ノ規定ニ依ル賃貸借終了ノ場合ニ於テ小作地ニ其ノ終了ノ日ヨリ一年内ニ收穫スペキ作物（作物ニ付主從ノ別アルトキハ主タル作物）が現ニ存スルトキハ收穫終了スル迄賃貸借ハ仍存續スルモノト看做ス但シ賃借人又ハ轉借人が信義ニ反シ賃貸借ノ終了ヲ妨グル目的ヲ以テ濫ニ作付ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第十一條 前二條ノ規定ハ當事者が小作地ノ賃貸借ノ期間ヲ定メタルモ其ノ一方又ハ各自が其ノ期間内ニ解約ヲ爲ス權利ヲ留保シタル場合ニ之ヲ準用ス
第十二條 小作地ノ賃貸借ノ期間ヲ定ムルトキハ其ノ期間ハ五年ヲ下ルコトヲ

得ズ若シ之ヨリ短キ期間ヲ以テ賃貸借ヲ爲シタルトキハ其ノ期間ハ之ヲ五年トス
前項ノ規定ハ兵役、疾病其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リテ自ラ耕作スルコト能ハザル爲又ヘ土地使用ノ目的ノ變更其ノ他特別ノ事由ニ因リテ五年以上賃貸スルコト能ハザル事情存スル爲一時土地ヲ賃貸スル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十三條 當事者ガ小作地ノ賃貸借ノ期間ヲ定メタルトキハ前條第二項ニ規定スル賃貸借ヲ除クノ外當事者ガ期間満了前六月乃至一年内ニ相手方ニ對シ更新拒絶ノ通知又ハ條件ヲ變更新スルニ非ザレバ更新セザル旨ノ通知ヲ爲サザルトキハ從前ノ賃貸借ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ賃貸借ヲ爲シタルモノト看做ス

第十四條 第九條又ハ第十一條ノ規定ニ依ル解約ノ申入アリタル場合ニ於テ其ノ申入後二月内ニ賃貸借ノ繼續ニ關シ小作調停法ニ依ル調停ノ申立ノ受理アリタルトキハ調停終了スル迄賃貸借ハ仍存續スルモノト看做ス但シ調停ノ申立ノ却下アリタルトキハ此ノ限り在ラズ前條ノ通知アリタル場合ニ於テ其ノ通知後二月内ニ更新ニ關シ小作調停法ニ依ル調停ノ申立ノ受理アリタルトキ亦前項ニ同ジ

第十五條 小作地ノ賃貸借ニ付期間ノ定アリヤ否ヤ明ナラザルトキハ賃貸借ハ期間ノ定ナキモノト推定ス

第十六條 小作地ノ賃貸人ハ賃借人ニ背信ノ行爲ナキ限り不當ノ理由ニ因リ惡意ヲ以テ解約ノ申入ヲ爲シ又ハ更新ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十七條 小作地ノ賃借人ガ一年分ノ小作料ノ一年以上ノ帶納其ノ他之ニ準ズベキモノトシテ命令ノ定ムル滞納ヲ爲

シタル場合ニ於テ一月ヲ下ラザル期間ヲ定メテ支拂ヲ爲スベキ旨ヲ催告シ其ノ期間内ニ支拂ナキトキハ賃貸人ハ賃貸借ヲ解除スルコトヲ得賃借人ガ信義ニ反シ賃貸人ヲ害スル目的ヲ以テ故意ニ小作料ヲ滞留シタル場合亦同ジ第十八條 小作地ノ賃借人が小作料ノ一部ノ支拂ヲ爲サンタル場合ニ於テハ賃貸人へ正當ノ事由アルニ非ザレバ其ヲ受領ヲ拒ムコトヲ得ズ前項ノ場合ニ於テ賃貸人ハ一部ノ支拂ヲ受領スルモ之ガ爲小作料ノ減額其ノ他ノ申出ヲ承諾シタルモノト推定セラルコトナシ第十九條 小作地返還ノ場合ニ於テ小作地ニ作物アルトキハ賃借人ハ賃貸人ニ對シ時價ヲ以テ之ヲ買取ルベキコトヲ請求スルコトヲ得但シ賃借人又ハ轉借人が信義ニ反シ買取ラシムル目的ヲ以テ濫ニ作付ヲ爲シタル作物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ第二十條 小作地返還ノ場合ニ於テハ賃借人ハ賃貸人ノ承諾ヲ得テ爲シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ容土、灌溉排水工事等小作地ノ改良ノ爲ニ支出シタル金額其ノ他ノ有益費ノ償還ヲ賃貸人ニ請求スルコトヲ得第三十一條 第十九條ノ規定ニ依ル作物ヲ買取價額又ハ前條ノ規定ニ依ル有益費ノ償還額ニ關シ當事者間ニ協議調ハザルトキハ申立ニ因リ裁判所ハ鑑定委員會ノ意見ヲ聽キ之ヲ定ム第二十二條 前條ノ場合ニ於テ賃貸人ガ作物ノ代價ノ支拂又ハ有益費ノ償還ニ充ツル爲裁判所ノ命ズル額ノ供託ヲ爲シタルトキハ賃借人へ小作地ノ返還ヲ拒ムコトヲ得ズ第二十三條 鑑定委員會ノ組織、權限其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定

小作官ハ鑑定委員會ニ出席シテ意見ヲ述ブルコトヲ得
第二十四條 小作地ノ賃貸人ガ賃貸借ノ更新ヲ拒ミ又ハ第九條若ハ第十一條ノ規定ニ依リ解約ノ申入ヲ爲シタル場合ニ於テハ賃貸人ハ賃借人ニ對シ契約ヲ以テ定メタル小作料ノ一年分ニ相當スル額ノ範圍内ニ於テ作離料ヲ支拂フコトヲ要ス
第二十五條 左ノ各號ノ一一該當スル場合ニ於テハ前條ノ規定ニ拘ラズ作離料ヲ支拂フコトヲ要セズ
一 賃借人ノ責ニ歸スペキ事由ニ因リ賃貸人ガ賃貸借ヲ解除スルコトヲ得ベキ事由アリタルトキ
二 更新ノ慣習ナキ賃貸借ノ更新ヲ拒定ム
三 第十二條第二項ニ規定スル賃貸借ナルトキ但シ期間ノ定ナキ賃貸借又ハ更新ノ慣習アル賃貸借ヲ同項ニ規定スル賃貸借ニ變更シタル場合ヲ除ク
第二十六條 作離料ノ額ニ關シ當事者間ニ協議調ハザルトキハ申立ニ因リ裁判所ハ鑑定委員會ノ意見ヲ聽キ一切ノ事情殊ニ左ノ各號ノ事項ヲ斟酌シテ之ヲ定ム
一 賃借人ノ通常受タベキ損失
二 賃貸人ガ賃貸借ヲ終了セシムルニ至リタル事情
三 小作人ノ普通ノ收穫高
四 小作人ノ額
五 賃借人ガ小作地ヲ繼續シテ賃借シタル期開
第二十七條 前條ノ場合ニ於テ賃貸人ガ作離料ノ支拂ニ充ツル爲裁判所ノ命ズル額ノ供託ヲ爲シタルトキハ賃借人ハ小作地ノ返還ヲ拒ムコトヲ得ズ
第二十八條 第二十一條、第二十二條、第

二十六條及前條ノ規定ニ依ル裁判ハ小作地ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ於

テ非訴事件手續法ニ依リ之ヲ爲ス

第二十九條 第二十一條及第二十六條ノ規定ニ依ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ

爲スコトヲ得其ノ期間ハ之ヲ二週間ト

第三十條 第二十一條及第二十六條ノ規定ニ依ル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ

得ズ

第三十一條 第二十一條及第二十二條ノ規定ニ依ル調停ニ付スル裁判ニ對シテハ不服ヲ

申立ツルコトヲ得ズ

第四章 小作地轉貸借ノ效力及終了

第三十二條 貸借人ハ貸貸人ノ承諾アル

トキト雖モ小作地ヲ轉貸スルコトヲ得

ズ但シ兵役、疾病其ノ他巴ムコトヲ得

ザル事由ニ因リテ自ラ耕作スルコト能

ハザル爲一時轉貸スル場合ハ此ノ限ニ

在ラズ

前項但書ノ場合ニ於テ賃貸人ハ正當ノ

事由アルニ非ザレバ轉貸ヲ拒ムコトヲ

得ズ

第一項但書ノ規定ニ依ル轉貸借ノ終了

ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ

定ム

第三十三條 賃借人前條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ同條第三項ノ規定ニ依ル給

スコトヲ得

第一項租書ノ規定ニ依ル轉貸借人ハ更ニ

之ヲ轉貸シ又ハ其ノ權利ヲ譲渡スコト

得ズ

第一項但書ノ規定ニ依ル轉貸借人ハ更ニ

之ヲ轉貸シ又ハ其ノ權利ヲ譲渡スコト

得ズ

令ニ違反シ第三者ニ小作地ノ使用又ハ

牧益ヲ爲サシメタルトキハ賃貸人ハ賃

貸借ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第三十條 第三十二條ノ規定ニ違反シ第三

者ニ小作地ノ使用又ハ收益ヲ爲サシメ

タルトキハ轉貸人又ハ賃貸人ハ轉貸借

ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 第三十二條ノ規定ニ違反シ

者ニ他營利ヲ目的トセザル法人又ハ

團體ガ賃借シタル小作地ヲ更ニ其ノ團

體員ニ耕作セシムル場合ニハ之ヲ適用

セズ市町村其ノ他ノ公共團體ガ賃借シ

タル小作地ヲ更ニ其ノ住民ニ耕作セシ

ムル場合亦同ジ

前二條ノ規定ハ前項ノ團體員又ハ住民

ガ第三者ニ小作地ノ使用又ハ收益ヲ爲

タルトキハ轉貸人又ハ賃貸人ハ轉貸借

ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 第二十一條及第二十二條、第

二十六條及第二十七條ノ規定ニ依ル裁

判ノ費用ニ付テハ民事訴訟費用法第十

六條及民事訴訟用印紙法第十六條ノ規

定ニ依ル

第三十三條 第二十一條及第二十二條、第

二十六條及第二十七條ノ規定ニ依ル裁

判ノ費用ニ付テハ民事訴訟費用法第十

六條及民事訴訟用印紙法第十六條ノ規

定ニ依ル

第三十四條 小作地轉貸借ノ效力及終了

第三十五條 第五條、第十條、第十八條

乃至第二十二條及第二十八條乃至第三

十一條ノ規定ハ第三十二條第一項但書

ノ規定ニ依ル轉貸借ニ之ヲ準用ス

第三十六條 第五條ノ規定ハ第三十四條

ノ規定ニ依ル轉貸借シタル小作地ヲ

ノ法人又ハ團體ガ賃借シタル小作地ヲ

其ノ團體員又ハ住民ニ耕作セシムル場

合ニ於テ其ノ小作地ニ付物權ヲ取得シ

タル者ト團體員又ハ住民トノ關係ニ之

ヲ準用ス

第三章ノ規定ハ第三十四條ノ法人又ハ

團體ガ賃借シタル小作地ヲ其ノ團體員

又ハ住民ニ耕作セシムル場合ニ於テ法

人又ハ團體ト其ノ團體員又ハ住民トノ

關係ニ之ヲ準用ス

第三十七條 小作地ノ轉貸借アル場合ニ

於テハ轉貸人ハ轉貸人ニ對シ命令ヲ定

ム所ニ依リ賃借終了ニ關スル通知ヲ爲スコトヲ得

第三十八條 第七條、第八條、第十八條

乃至第二十二條及第二十八條乃至第三

十一條ノ規定ハ冰小作地ノ所有者ト永

期ノ規定ニ依ル永小作權ノ效力及終了

ケタル場合ヲ除クノ外民法第二百七十

六條ノ規定ニ依ル永小作權ノ消滅ヲ請

求ハ一月ヲ下ラザル期間ヲ定メテ小作

料ノ支拂ヲ爲スペキ旨ヲ催告シ其ノ期

限ノ規定ニ依ル

小作人トノ關係ニ之ヲ準用ス但シ第七

條及第八條ノ規定ハ永小作人ガ永小作

地ヲ耕作ノ目的ヲ以テ賃貸シタル場合

ニ於テハ第十二條第二項ニ規定スル賃

借ヲ除クノ外永小作地ノ所有者ト賃

借人トノ關係ニ之ヲ準用ス

第三十九條 永年作物ノ栽培ヲ目的トシ

テ永小作權ヲ設定スル場合ニ於テハ其

ヲ七十年ニ短縮ス

前項ノ永小作權ノ設定ハ之ヲ更新スル

コトヲ得但シ其ノ期間ハ更新ノ日ヨリ

七十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十條 永小作權ノ期間滿了ノ後永小

作人ガ耕作ヲ繼續スル場合ニ於テ永小

作地ノ所有者ガ遲滞ナク異議ヲ述べザ

ルトキハ從前ノ永小作權ナシタル後永小

作人ガ耕作ヲ繼續スル場合ニ於テ永小

間内ニ支拂ナキトキニ非ザレバ之ヲ爲

スコトヲ得

第六章 小作條件ノ變更

第四十三條 不可抗力ニ基ク牧穀高タ減

少ヲ理由トスル小作料ノ減額又ハ免除

ノ申出ハ遅クトモ牧穀著手ノ日ヨリ十

アルトキハ此ノ限ニ在ラ

五日前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但シ當事

者ガ別段ノ定ヲ爲シタルトキ又ハ宥恕

ノ申出ハ遅クトモ牧穀著手ノ日ヨリ十

アルトキハ相當ク時期ニ之ヲ爲スコト

ヲ要ス

第四十四條 前條ノ申出アリタル場合ニ

於テ當事者ノ一方ガ相手方ニ對シ檢見

ノ申出ヲ爲サントスルトキハ遲滞ナク

之ヲ爲スコトヲ要ス

檢見ノ申出ヲ爲サントスルトキハ遲

料ノ額ヲ定ムル場合ニ之ヲ爲スコトヲ

得

檢見ノ方法ニ付當事者ノ協議調ハザル

トキ亦同シ

第四十五條 前條第二項ノ規定ニ契約又

ハ慣習ニ依リ當事者ガ每年檢見ノ上小

坪刈其ノ他檢見ノ爲必要ナル行爲ヲ爲

スコトヲ得

第四十六條 前二條ノ規定ニ依リ檢見

爲ス者ハ土地ノ立入耕作狀況ノ調査

及之ニ準ズル者並ニ賃借人及之ニ準ズ

ル者各別ニ又ハ共同シテ選定シタル

所ニ依リ一定タリ區域内ノ土地ノ賃貸人

及之ニ準ズル者並ニ賃借人及之ニ準ズ

ル者各別ニ又ハ共同シテ選定シタル

者ヲ以テ之ヲ組織ス
小作委員會ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ

之ヲ定ム

第四十九條 裁判所ハ當事者又ハ小作官ノ申立ニ因リ小作委員會ノ決定著シク不當ナリト認ムルトキハ鑑定委員會ノ

意見ヲ聽キ其ノ決定ヲ取消スコトヲ得此ノ申立ハ決定ノ通知アリタル日ヨリ二週間内ニ之ヲ爲スニ非ザレバ其ノ效力ナシ

小作委員會ノ決定ヲ取消ス裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ

申立却下ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十條 小作委員會ノ決定ハ取消ノ申立ナクシテ前條第一項ノ期間ヲ経過シ又ハ申立却下ノ裁判確定シタル日ヨリ當事者間ノ契約ノ内容ヲ成ス

第五十一條 第二十八條及第三十一條ノ規定ハ第四十九條ノ規定ニ依ル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第五十二條 當事者ハ合意ヲ以テ小作條件ノ改定ヲ爲サシムル爲一人又ハ數人ノ仲裁者ヲ選定スルコトヲ得

第五十三條 小作料ノ供託

第五十四條 小作料ニ支拂又ハ小作地ノ返還ヲ命ズル判決ニ付假執行ノ宣言アリタル場合ニ於テ其ノ判決ヲ爲シタル裁判所ハ上訴期間内ニ限り債務者ノ申立ニ因リ相當額ノ擔保ヲ供セシメ其ノ執行ノ停止又ハ既ニ爲シタル執行處分ノ取消ヲ命ズルコトヲ得

第五十五條 小作料債權ニ基ク假差押ヲ

第五十六條 小作關係ノ爭議ニ付債務者ニ對シ小作地ノ占有ヲ解ク假處分ヲ命ズル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ執達吏ニ小作地ノ保管ヲ命ズルト同時ニ債務者ガ小作地ノ現状ノ變更其ノ他判決ノ執行ヲ妨げベキ行爲ヲ爲サザルコトノ誓約ヲ爲シ又ハ相當額ノ擔保ヲ供スルコトヲ條件トシテ小作地ノ使用又ハ收益ヲ債務者ニ許シ得ベキコトヲ命ズルコトヲ得

第五十七條 債務者ニ對シ小作地ノ占有ヲ解ク假處分ヲ命ジタル場合ニ於テ爾後ノ事情ニ依リ裁判所ハ既ニ爲シタル假處分ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第五十八條 小作料債權ニ基ク假差押ヲ命ノ執行トシテ小作地ノ作物ノ差押ヲ許サザル旨ノ決定ニ因リ債務者ヲシテ所ハ當事者ノ申立ニ因リ債務者ヲシテ相當額ノ擔保ヲ供セシメタル上小作料債權ニ基ク假差押ヲ許サザル旨ノ決定

ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ爾後ノ事情ニ依リ決定ヲ以テ前項ノ擔保額ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

前二項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ

第五十五條 小作料債權ニ基ク假差押ヲ命ズル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ民事訴訟法第七百四十三條ニ規定スル金額ノ記載ニ代へ假差押ノ執行ヲ停止シ又ハ既ニ爲シタル假差押ヲ取消スコトヲ得ル爲債務者ニ於テ供スペキ相當ノ擔保額ヲ假差押命令ニ記載スルコトヲ得

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツル裁判所ハ爾後ノ事情ニ依リ決定ヲ以テ前項ノ擔保額ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第五十六條 小作關係ノ爭議ニ付債務者ニ對シ小作地ノ占有ヲ解ク假處分ヲ命ズル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ執達吏ニ小作地ノ保管ヲ命ズルト同時ニ債務者ガ小作地ノ現状ノ變更其ノ他判決ノ執行ヲ妨げベキ行爲ヲ爲サザルコトノ誓約ヲ爲シ又ハ相當額ノ擔保ヲ供スルコトヲ條件トシテ小作地ノ使用又ハ收益ヲ債務者ニ許シ得ベキコトヲ命ズルコトヲ得

第五十七條 小作料債權ニ基ク假差押ヲ命ノ執行トシテ小作地ノ作物ノ差押ヲ許サザル旨ノ決定ニ因リ債務者ヲシテ所ハ當事者ノ申立ニ因リ債務者ヲシテ相當額ノ擔保ヲ供セシメタル上小作料債權ニ基ク假差押ヲ命ズルコトヲ得

第五十八條 小作料債權ニ基ク假差押ヲ命ノ執行トシテ小作地ノ作物ノ差押ヲ許サザル旨ノ決定ニ因リ債務者ヲシテ相当額ノ擔保ヲ供セシメタル上小作料債權ニ基ク假差押ヲ命ズルコトヲ得

トキハ執行裁判所ハ當事者ノ申立ニ因リ債務者ヲシテ差押物ノ隠匿、毀損其ノ他執行ヲ妨げベキ行爲ヲ爲サザルコトノ誓約ヲ爲サシメ又ハ相當額ノ擔保ヲ供セシメタル上執達吏占有ノ儘債務者ヲシテ收穫ヲ爲サシメ其ノ他差押物ニ付管理上必要ナル處置ヲ爲サシム

前項ノ規定ニ依ル裁判ニハ收穫其ノ他差押物ノ管理ニ必要ナル費用ノ最高額ノ執行ヲ停止シ又ハ既ニ爲シタル假差押ヲ取消スコトヲ得ル爲債務者ニ於テ供スペキ相當ノ擔保額ヲ假差押命令ニ記載スルコトヲ得

第六十二條 第六十條第二項第三項及前條ノ規定ハ小作料ノ支拂又ハ小作地ノ

返還ヲ命ズル判決ノ假執行ヲ免ル爲債務者ノ供スル擔保ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依ル裁判ニ出席シタル者前二項ノ規定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ

第六十三條 本章ノ規定ハ永小作地ノ所有者ト永小作人トノ關係ニ之ヲ準用ス

第六十四條 鑑定委員會ニ出席シタル者前項ノ規定ニ依ル裁判ニ顛末、鑑定委員ノ意見若

故ナク會議ノ顛末、鑑定委員ノ意見若

ハ其ノ多少ノ數又ハ小作官ノ意見ヲ漏泄シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十五條 第五十六條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ誓約ヲ爲シタル者ニ之ヲ要ス

第五十六條 第二項ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依ル裁判ニ之ヲ準用ス

第五十九條 前條ノ規定ハ小作料債權ニ依テ差押ヲ明白ニスルコトヲ要ス

第五十六條 第二項ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依ル裁判ニ之ヲ準用ス

第五十九條 前條ノ規定ハ小作料債權ニ依テ差押ヲ明白ニスルコトヲ要ス

第六十條 民事訴訟法第百十二條、第一百十三條、第百十五條及第百十六條ノ規定ハ本章ノ規定ニ依ル擔保ニ之ヲ準用ス

第六十一條 第五十三條乃至第五十五條、第五十八條又ハ第五十九條ノ規定ニ依リ債務者供託ヲ爲シタルトキハ供託スベキ旨ヲ供託物ノ保管者又ハ執達吏ニ命ズルコトヲ得

第六十二條 第五十三條乃至第五十五條乃至第六十五條ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ存スルモノニ付亦同ジ

第六十三條 第三十七條及第四十三條乃至第六十八條ノ規定ハ存スル小作地ノ轉貸借ニシテ第三十

四條ノ規定ニ該當セザルモノニ之ヲ適

第六十四條 附則 第六十二條 第六十條第二項第三項及前條ノ規定ハ小作料ノ支拂又ハ小作地ノ

返還ヲ命ズル判決ノ假執行ヲ免ル爲債務者ノ供スル擔保ニ之ヲ準用ス

第六十五條 附則 第六十二條 第六十條第二項第三項及前條ノ規定ハ小作料ノ支拂又ハ小作地ノ

返還ヲ命ズル判決ノ假執行ヲ免ル爲債務者ノ供スル擔保ニ之ヲ準用ス

第六十六條 附則 第六十二條 第六十條第二項第三項及前條ノ規定ハ小作料ノ支拂又ハ小作地ノ

返還ヲ命ズル判決ノ假執行ヲ免ル爲債務者ノ供スル擔保ニ之ヲ準用ス

第六十二條 第六十條第二項第三項及前條ノ規定ハ小作料ノ支拂又ハ小作地ノ

返還ヲ命ズル判決ノ假執行ヲ免ル爲債務者ノ供スル擔保ニ之ヲ準用ス

第六十三條 本章ノ規定ハ永小作地ノ所有者ト永小作人トノ關係ニ之ヲ準用ス

第六十四條 鑑定委員會ニ出席シタル者前項ノ規定ニ依ル裁判ニ顛末、鑑定委員ノ意見若

故ナク會議ノ顛末、鑑定委員ノ意見若

ハ其ノ多少ノ數又ハ小作官ノ意見ヲ漏泄シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十五條 第五十六條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ誓約ヲ爲シタル者ニ之ヲ要ス

第五十六條 第二項ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依ル裁判ニ之ヲ準用ス

第五十九條 前條ノ規定ハ小作料債權ニ依テ差押ヲ明白ニスルコトヲ要ス

第五十九條 第二項ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依ル裁判ニ之ヲ準用ス

第五十九條 前條ノ規定ハ小作料債權ニ依テ差押ヲ明白ニスルコトヲ要ス

第六十條 民事訴訟法第百十二條、第一百十三條及第一百十六條ノ規定ニ依リ債務者供託ヲ爲シタルトキハ供託スベキ旨ヲ供託物ノ保管者又ハ執

達吏ニ命ズルコトヲ得

第六十一條 第五十三條乃至第五十五

條、第五十八條又ハ第五十九條ノ規定ニ依リ債務者供託ヲ爲シタルトキハ供託スベキ旨ヲ供託物ノ保管者又ハ執

達吏ニ命ズルコトヲ得

第六十二條 第五十三條乃至第五十五

條乃至第六十五條ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ存スル小作地ノ轉貸借ニシテ第三十

四條ノ規定ニ該當セザルモノニ之ヲ適

第六十三條 第三十七條及第四十三條乃至第六十八條ノ規定ハ存スル書ノ規定ハ前項ノ轉貸

借ニ之ヲ準用ス

第六十四條 本法施行ノ際現ニ存スル小

作地ノ賃貸借ニシテ五年未満ノ期間ヲ

定メタルモノハ其ノ期間ハ契約ノ日ヨリ五年トス但シ第十二條第二項ノ規定ニ該當スル場合ニ於テ五年未満ノ期間ヲ定メタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ。第七十條 第六十八條ノ轉貸借ニシテ期間ノ定ナキモノハ本法施行ノ日ヨリ二十年ヲ超エザル範圍内ニ於テ其ノ效力ヲ有スリ爲シタルモノト看做ス。

第七十一條 本法施行ノ際現ニ存スル小作地ノ賃貸借又ハ轉貸借ニ付本法施行前爲シタル解約ノ申入ハ之ヲ本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス。

第七十二條 本法施行ノ際現ニ存スル小作地ノ賃貸借ニシテ本法施行後一年内ニ其ノ期間満了スペキモノニ付當事者ガ其ノ満了前一年内ニ相手方ニ對シテ爲シタル更新拒絶ノ通知又ハ條件ヲ變更スルニ非ザレバ更新セザル旨ノ通知ハ第十三條ノ期間内ニ爲サザルモノト雖モ之ヲ同條ノ期間内ニ爲シタルモノト看做ス。

第七十三條 本法ハ本法施行前ニ實借人、轉借人又ハ永小作人ノ支出シタル小作地又ハ永小作地ノ有益費ノ償還ニハ之ヲ適用セズ。

第七十四條 本法施行ノ際現ニ作株（小作權、上地代、甘土料、ザル代、鍵先等ノ名稱ヲ以テ賣買セラルモノヲ含ム）又ハ永小作權ノ賣買ノ慣習アル地方ニ於テ其ノ習慣ノ存續スル小作地又ハ永小作地ヲ返還セシムル場合ニ於テハ第二十一條、第二十二條及第二十八條乃至第三十一條ノ規定ハ前項ノ償金ニ之ヲ準用ス。

○國務大臣（町田忠治君） 小作法案提出ノ理由ヲ説明申上ゲマス、我國ノ小作地ノ面

積及ビ小作、自己作等ノ農家ノ數ノ極メテ多イコトヲ以テ見マシテモ、小作問題ガ農村問題中ノ最モ重大ナル地位ニアルコトハ、之ニ依ラテモ認メラレマス、是ト農家ノ農業經營ハ極メテ小規模デアリマス、他方小作關係ニ立ツ地主モ亦其大部分ハ小地主ニアリマス、是ハ經濟上カラ豐カナラザル地主小作、兩當事者ノ間ニ於テ薄利ナル農業収益ヲ中心ト致シテ、小作爭議ガ釀成セラレテ居ルノデアリマス、最近ニ於キマシテハ、争議ガ全國的ニ彌漫シ、争議ノ件數ハ相當多數ニ上ボテ居リマス、殊ニ土地返還爭義、未解決事件ノ増加等ハ、争議が深刻トナツタコトヲ示シテ居ルノデアリマス、小作争議ハ結局地主小作トモニ傷ケ、延イテ農村生活ノ安定、農村ノ發達ニ一大障害ヲ與ヘルコトハ明カデアリマス、此障害ヲ出来ルダケ取り除クコトハ緊要デアリマシテ、是ガ解決ハ當業者ノ交渉ノミニ放任シテ置ク譯ニ參リマセヌト存ジマス、國家ト致シテモ當然適當ノ施設ガナケレバナラヌト存ジマス、其方策トシテハ農家全般ニ瓦ル種々ノ施設ヲ致スト共ニ、自作農ノ創定維持、小作調停法ノ施行等ニ依リマシテ、從來相當效果ヲ收メテハ居リマスモノノ、尙ホ小作争議ガ現行法制ノ不備ニ基イタ所モアリマス、又小作關係ハ從來ノ慣行ニ依ラ要項ヲ立案シタノデアリマス、農林省及び司法省ニ於キマシテハ、此要項ニ基イテニ一面地主ノ所有權ヲ尊重シ、他面小作農家ノ地位ヲ確保シ、我國農業ノ改良發達ニ支障ナキコトニ努メマシテ、調査會自力ヲ加ヘタノデアリマス、此修正ニ付キマシテハ貴族院ニ於カレテ御審議ノ結果ヲ俟チマシテ適當ニ考慮致ス次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協贊アラムコトヲ切望イタシマシテ、主トシテ理解アル地主、勤勉ナル小作人ヲ中心トシテ立案スルト同時ニマス。

○議長（公爵德川家達君） 本案ニ對シ質疑ノ通告ガゴザイマス、通告順ニ依リ發言ヲ許シマス、石川三郎君

〔石川三郎君演壇ニ登る〕

○石川三郎君 私ハ農民ノ立場上、極ク簡單ニ三ツ質問ヲ致シタイト思フノデアリマス、此法案ハ地主小作人ノ權利義務ヲ確保イタシテ居ルノデアリマスルカラ、地主ト小作人ハ此法案ニ依リマシテ確實ニ其權利ヲ得ルコトニ相成ルノデアリマス、從ヒマシテ丁度憲法ガ國民ヲ作リマスルト同様ニ、此法案ハ我國將來ノ地主ト小作人ヲ作ル重要ナル法案デアリマス、從ヒマシテ農民カラ見マスルト決シテ犯スコトノ出來ナイ尊キ法案ト思ハナケレバナラス、然ルニ此法案ガ提案イタサレマスルヤ、地主モ小作

テ、以テ農村問題ノ解決ニ資スルガ爲ニ、小作法ヲ制定スルノ必要ヲ認メタノデアリマス。

〔議長公爵德川家達君議長席ニ復ス〕

小作法案ノ立法ニ至リマス迄ニハ、相當ノ沿革ヲ經テ居リマス、本法案ハ小作調查會ノ答申トナリマシタル其要項ヲ基礎トシテ居ルノデアリマス、小作調查會ニ於キマシテハ、審議ニ當テ原案ヲ他ニ求ムルコトナク、或ハ地主側、小作側、中立者等、關係者等ノ意見ヲ直接聽取り、又ハ小作關係ノ實情ヲ調査シテ、而モ外國ノ立法令ニ捉ハレル所ハナク、現在ノ小作慣行、農村ノ特殊ノ事情及ビ社會ノ推移等ヲ考ヘ、又理解アル地主、農村ニ勤勉ナル小作農家ハ、小作關係ニ於テ如何ナル立場ニアルカラ考慮イタシマシテ、主トシテ理解アル地主、勤勉ナル小作人ヲ中心トシテ立案スルト同時ニマス。

尙ホ衆議院ニ於キマシテハ第六條及第十七條ニ修正ヲ加ヘタノデアリマス、此修正ヲ加ヘタノデアリマス、此修正ニ付キマシテハ貴族院ニ於カレテ御審議ノ結果ヲ俟チマシテ適當ニ考慮致ス次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協贊アラムコトヲ切望イタシマス。

シタノデアリマス、依ラテ更ニ小作調查會ヲ開キマシテ、小作事情ノ變遷ニ付テ協議ヲス、本法案ハ相當廣汎ニ瓦ツテ居リマスガ、土地ノ耕作關係ニ付キマシテ、契約ノ效力期間及ビ繼續竝ニ契約終了ノ場合ノ處置、小作條件ノ變更、其他ノ争議ノ緩和方法ニ付キマシテ、種々ナ事情ヲ考慮シテ規定ヲ設ケテ居リマスガ、其詳細ナル說明ハ他ノ機會ニ讓ルコト致シマシテ、茲ニ本法案提出ノ理由ヲ大體申上ゲル次第デアリマス、尙ホ衆議院ニ於キマシテハ第六條及第十七條ニ修正ヲ加ヘタノデアリマス、此修正ヲ加ヘタノデアリマス、此修正ニ付キマシテハ貴族院ニ於カレテ御審議ノ結果ヲ俟チマシテ適當ニ考慮致ス次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協贊アラムコトヲ切望イタシマス。

シタノデアリマス、依ラテ更ニ小作調查會ヲ開キマシテ、小作事情ノ變遷ニ付テ協議ヲス、本法案ハ相當廣汎ニ瓦ツテ居リマスガ、土地ノ耕作關係ニ付キマシテ、契約ノ效力期間及ビ繼續竝ニ契約終了ノ場合ノ處置、小作條件ノ變更、其他ノ争議ノ緩和方法ニ付キマシテ、種々ナ事情ヲ考慮シテ規定ヲ設ケテ居リマスガ、其詳細ナル說明ハ他ノ機會ニ讓ルコト致シマシテ、茲ニ本法案提出ノ理由ヲ大體申上ゲル次第デアリマス、尙ホ衆議院ニ於キマシテハ第六條及第十七條ニ修正ヲ加ヘタノデアリマス、此修正ヲ加ヘタノデアリマス、此修正ニ付キマシテハ貴族院ニ於カレテ御審議ノ結果ヲ俟チマシテ適當ニ考慮致ス次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協贊アラムコトヲ切望イタシマス。

事實ハ全ク是ト反対イタシマシテ、全然之ヲ厄介視シテ居ルト云フヤウナ遺憾千萬ナコトガ起テ居ルノデアリマス、申ス迄モナク假令良イ法策アリマシテモ、人心ガ不安ノ念ニ驅ラレテ居リマスル時ニハ、疑モノ眼ヲ以チマシテ誤解ヲ受ケルコトヲ免レヌコドヘ往々アルノデアリマス、今ヤ我農民ハ全ク經濟上不安ノ念ニ陥テシマッテ居ル、目下ノ米價ハ約十七八圓デアリマシテ、是ハ丁度金解禁前ノ大正七年ノ米價デアリマス、其時ノ地方ノ負擔ヲ調べテ見マスルト、其當時ノ郡役所ノ歳入ノ決定ヲ合セテ約五億九千万圓ニ相成テ居リマス、其後好況時代ニ移リマシテ地方費が非常ニ膨脹イタシマシタガ、近來ハ段々減テ居リマス、併ナガラ尙ホ昭和四年ニ於キマシテモ其額ハ十七億六千萬圓ニ相成テ居ル、米價ハ元ノ通リ十七圓ニ下リマシテモ、農民ハ依然好況時代ノ負擔ヲ致シテ居ルノデアリマス、是デハドウシテモ農民ガ立ツ道理ガアリマセヌ、從ヒマシテ好況ノ時代ニ於キマシテモ米價ガ三十圓時代ニ至リマスルト、歷代ノ内閣ハ米ノ買上げヲ致シマシテ、維持シテ行タノデアリマス、是ハ三十二圓以下ハ米ノ値ガ下り過ギクト云フノデナクシテ、ソレダケノ米價ヲ保テ居ラナケレバ農民ガ其負擔ニ堪ヘナイカラデアリマス、從ツテ今日米價ガ其半分ニ下落シテモ尙ホ好況時代ノ負擔ヲスルト云フノハ到底言ヘナイノデアリマスルカラ、現政府トシテ、農民ガ其負擔ニ堪ヘナイカラデアリマス、從ツテ今日米價ガ其半分ニ下落シテモ専時分ニ吊リ上ゲルカ、ソレガ出來ナケレバ、國民…農民ノ負擔ヲ元通リニ下グナクテハナラヌ、此事ハ今日急ニ分ツタ事柄

農民ハ古來不作若タハ不況ニ遇ヒマスルト云
其外ノモノハ賣ハナクテモ通スヤウニシナリ
ケレバナラヌト云フノガ、我農民本來ノ借金
龍デアリマス、サウ云フ農民ガ假令此好況
時代ニ於テ外ノ國民ガ少々奢ルヤウニシナリ
マシテモ、今日食フニ食ハレナイヤウナ供
金ラシタトハ私ヘドウシテモ考ヘルコトガ
出來ナイ、即チ好況時代ニ於テ殖エマシタ
ル所ノ借金ハ、此者リノ爲ニ出來タ借金デ
ナクシテ、好況時代ニ蓄積シタル所ノ資本
ヲ元ト致シ、自作農憂鬱法ノ保護ト相俟
マシテ、自作田ヲ買フ爲ニ作ツタ所ノ蓄產的
ノ借金ト私ハ思フテ居ル、然ルニ責任アル政
府ハ此蓄產的借金ヲ捉ヘマシテ、奢侈的ノ借
金デアルト云フ風ニ言ハレマシテハ、私ハ
農民ニ對シテ冷淡ドコロカ、實ニ冷酷極マ
ル所ノ暴言ト、私ハ思フノデアリマス、從
ビマシテ現農民ガ現政府ニ對シテ怨嗟ノ念
ヲ持ツテ居ルト云フノハ掩フベカラザル事
實デアル、斯様ナ時ニ於キマシテ、苟モ農
民ニ關係アル重要法案ヲ提出スルニ當リマ
シテハ、先づ農村ニ對スル此救濟ヲ行フカ
若シ行フコトガ出來ナケレバ、ソレダケノ
聲明ヲ致シタク後ニ行フノガ至當デハナイ
カ、提案ヲスルノガ至當デハナイカ、然ル
ニ何等是等ニ言及イタサズシテ、漠然トシ
テ此案ヲ出サレタノデアリマスガ故ニ、此
尊キ案ニ對シテ、斯ノ如キ「ケチ」方付イタコ
トト思フノデアリマス、此邊ニ付キマシテ
ハ當局ハドウ考ヘテ居ラレルノデアリマス
ルカ、御尋ヲ致スノデアリマス、其次ハ此
法案ニモ尙ホ依然トシテ曖昧ナル言葉ガア
ル、例ヘテ見マスルト云フト、貸借人又ハ轉
借人ニ不利ナ者ハ之ヲ定メザルモノト看做

或ハ背信、惡意、不利ト云フガ如キ抽象的ノ言葉ガ依然入^フテ居ル、是ハ法ノ嚴正ヲ傷ケルノミナラズ、依然トシテ小作爭議竝ニ「ブローカー」ヲ誘發スベキモノト恩フノデアリマス、從ヒマシテ十分調査研究ヲ致シマシタナラバ、削ルベキハ削リ、修正スベキハ修正イタシマシテ、具體的ノ事柄ニ直スノガ至當デハナイカト思フ、其次ヘ此法案ヲ作ルニ當リマシテ、今大臣カラ御説明モアリマシタ通り、從來ノ國情並ニ習慣ヲ十分考慮シテ……加味シテ作ラレテアルコトハ認メルコトガ出來ルメアリマス、併ナガラ兎ニモ角ニモ從來ノ情誼主義ヲ捨テマシテ、茲ニ法律的ニ變^フタ重大法案テアリマスガ故ニ、之ヲ實地ニ運用スルニ當リマシテハ、ソレ相當ノ準備ト用意ガ要ルコトト思ヒマス、例へテ見マスルト、今マデ知ラナカッタ小作人モ此法案ヲ見マシテ、己ノ得タル所ノ權利ヲ知ルキウニナル、從^フテ初メノ間ハ却^フテ小作争議ガ殖エルカモ知レヌ、其場合ニ於キマシテ裁判ト致シマシテハ、從來ヨリモ、ヨリ深切ニ、ヨリ手際ヨク裁判ヲシナケレバ、折角良イ法案ガ出來マシテモ、ソレダケノ成果ヲ收メルコトガ出來ナイ、却^フテ惡イ結果ニナリハセヌカト思フ、此邊ニ對シマシテモ當局ハ十分ニ考慮ヲセナケレバナラヌガ、ドウ云フ風ニ研究ヲサレテ、ドウ云フ風ニ手筈ヲ決メテ居ラレルカ伺ヒタイノデアリマス、兎ニ角大臣ノ説明ガアリマシタ通り、此法案ハ小作争議ノ爲ニ出來テ居ル、出來ル動機ハソレニアル、併ナガラ出來上^フタ以上ハ我ガ國民ヲ救フベキデアリマスカラ一種ノ小作争議用ノ法律トセズニ、農民ニ對スル一種ノ聖

典トシテ慎重ニ取扱ハレルヤウニ、私ハ農民ノ立場トシテ希望ヲスルノアリマス

「國務大臣町田忠治君演壇ニ登ル」

○國務大臣(町田忠治君) 石川君ノ只今ノ御質問ハ大體三點ニ分レテ居ルヤウデアリマス、第一點ハ小作法ヲ制定スルノ時機宜シキヲ得テ居ラヌト云フヤウナ意味合ノ御尋ニアリマシタ、之ニ御答ヲ致シマスルニ付キマシテ、農村今日ノ不況、農産物ノ暴落等ニ對スル御意見ガアリマシタガ、只今ノ其御意見ニ對シテハ、先般奥平伯爵ノ農村問題ノ御質問ニ際シテ、私ヨリ數項ニ分テ御答ヘ致シテアリマスカラ、茲デハ繰返スコトハ致シマセヌ、唯仰セノ如ク農家ノ莫大ナル負債ヲ如何ニ整理スルカト云フ問題、或ハ農産物ノ暴落……米蘭價ヲ始メトシテ農産物ノ暴落ニ對シテ、一面恒久的ナ施設ヘ斯様ニ致ス、應急的ノ施設ハ斯様ニ致スト、別ニ御答ヲ致シテアリマスガ故ニ是モ省キマス、大藏大臣ニ對スル金解禁及ビ現内閣ノ財政政策ニ對シテノ御尋、又御非難モアリマシタ、此點ニ於キマシテモ、私ノ見ル所ハ世界不景氣ノ外ニ、農産物ノ價格ノ暴落ノ原因ヲ一通り奥平伯ニ御答ヘハ、他ノ經濟上ノ施設ニ依テ農村ノ困憊ヲ救フコトハ暫ク大キナ問題トシテ他日ノ問題ト致シマシテ、小作法制定ハ斯權ナ不安ノ際之ヲ一日モ早々實施スルコトハ、少々トモ其不安ノ一部ヲ救ヒ得ラレルト云フ考出シタノアリマス、而シテ先刻説明申上ゲタ通り、此要項ハ數年前カラ公ケニ致シマシテ、小作争議ノアリマス地方ニ於テノ協

調會又ハ小作調停委員ナドガ、實際ニ於テ事實デアリマス、先年ハ地主、小作人双方

モ此要項ニ依テ爭議ヲ調停シテ居ルノハ

○議長(公爵徳川家達君) 宜シウゴザイマ

カラ此要項ニ對シテ少カラザル反対ヲ受ケ

マシタガ、併シ昨今ノ大體カラ見マスルト、

尋ニアリマシタ、之ニ御答ヲ致シマスルニ付キマシテ、農村今日ノ不況、農産物ノ暴落等ニ對スル御意見ガアリマシタガ、只今ノ其御意見ニ對シテハ、先般奥平伯爵ノ農村問題ノ御質問ニ際シテ、私ヨリ數項ニ分テ御答ヘ致シテアリマスカラ、茲デハ繰返スコトハ致シマセヌ、唯仰セノ如ク農家ノ莫大ナル負債ヲ如何ニ整理スルカト云フ問題、或ハ農産物ノ暴落……米蘭價ヲ始メトシテ農産物ノ暴落ニ對シテ、一面恒久的ナ施設ヘ斯様ニ致ス、應急的ノ施設ハ斯様ニ致スト、別ニ御答ヲ致シテアリマスガ故ニ是モ省キマス、大藏大臣ニ對スル金解禁及ビ現内閣ノ財政政策ニ對シテノ御尋、又御非難モアリマシタ、此點ニ於キマシテモ、私ノ見ル所ハ世界不景氣ノ外ニ、農産物ノ價格ノ暴落ノ原因ヲ一通り奥平伯ニ御答ヘハ、他ノ經濟上ノ施設ニ依テ農村ノ困憊ヲ救フコトハ暫ク大キナ問題トシテ他日ノ問題ト致シマシテ、小作法制定ハ斯權ナ不安ノ際之ヲ一日モ早々實施スルコトハ、少々トモ其不安ノ一部ヲ救ヒ得ラレルト云フ考出シタノアリマス、而シテ先刻説明申上ゲタ通り、此要項ハ數年前カラ公ケニ致シマシテ、小作争議ノアリマス地方ニ於テノ協

カラ……

○小林嘉平治君

賃貸借關係ノ條項ニ付キマシテハ、法文ニ

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第二問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第三問ノ

賃貸借關係ノ條項ニ付キマシテハ、法文ニ

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第四問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第五問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第六問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第七問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第八問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第九問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第十問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第十一問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第十二問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第十三問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第十四問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第十五問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第十六問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第十七問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第十八問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第十九問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第二十問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第二十一問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第二十二問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第二十三問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第二十四問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第二十五問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第二十六問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第二十七問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第二十八問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第二十九問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第三十問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第三十一問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第三十二問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第三十三問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第三十四問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第三十五問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第三十六問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第三十七問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第三十八問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第三十九問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第四十問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第四十一問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第四十二問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第四十三問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第四十四問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第四十五問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第四十六問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

ト云フコトヲ申述べテ置キマス、第四十七問ノ

地主ノ方面ニ於キマシテハ、稍々斯様ナ要

項ノ如キモノガ、一日モ早々實施セラレル

コトヲ希望シテ居ル傾向ガ著シク相成タ

作人ニ向テ契約ヲ更新スルコトヲ交渉スルノハ、此法ノ立テ方デアリマスガ、矢張り自作ヲ主トスル爲ニ、農家ガ從來實付ケテアリマス小作地ヲ自ラ自作スルト云フ場合ニハ、左様ナ契約ノ更新ヲ拒絶スルカ、其他或ル條件ノ下ニ契約ノ解除ヲ申出ルト云フヤウナ簡條ヲ設ケテアリマスノハ、只今小林君ノ御尋ノ主トシテ農家ヲ次第々々ニ自作農ニ變ラシムル趣意カラ出來テ居ルノデアリマスガ故ニ、只今ノヤウナ御懸念ハナカラウト思ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 是ニテ質疑ノ通告者ハ終リマシタ

○子爵清岡長言君 本案ハ重要ナル法案ト思ヒマスカラ、特別委員ヲ數ヲ二十七名トシ、其指名ヲ議長ニ一任スルコトノ動議ヲ提出イタシマス

○子爵西大路吉光君 賛成
(瀬古書記官朗讀)

○議長(公爵徳川家達君) 過半數ト認メマス、委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀ヲ致サセマス

○議長(公爵徳川家達君) 町田農林大臣ガ發言ヲ求メラレマシタ
(國務大臣町田忠治君演壇ニ登ル)
〔國務大臣町田忠治君演壇ニ登ル〕
員會ニ出席イタシマシタ際ニ、三室戸子爵ヨリ農村問題ニ付キマシテ私ニ御尋ガアッタコトヲ速記録ニ依テ拝見イタシマシタ、御諒解ヲ得マスル爲ニ簡單ニ當時ノ事情ヲ申上ゲテ置キマス、奥平伯爵ノ農村問題ニ對スル御質問ガ極マシテ、當時私ハ農村疲弊ノ原因ヲ、奥平伯爵ノ御質問ノ通り農產物ノ價格ノ暴落ヲ以テ、其原因ノ一トスルコトニ同意ヲ致シタノデアリマス、而シテ何故農產物ノ斯様ナ暴落ヲ來シタカト云フコトノ原因ヲ、私ハ奥平伯爵ニ御答スル中ニ、世界的不景氣ノ外ニ農產物ノ生産高ノ過剩ナルコトヲ一つノ原因ト考ヘ、金解禁ニ依リ、爲替相場ノ恢復ニ依テ、我國ノ物價ガ多少其原因ニ依テ低落シタ部

分モ一つノ原因ニ算ヘ、消費節約ガ多少農產物ノ價格ノ下落ノ一つノ原因トナルコトヲ數ヘタノデアリマス、其當時私不用意ノ言葉ヲ使ヒマシテ、農產物ノ豐穰ト云フ言葉ヲ使シタコトヲ、勿論デアリマス、私共モ應急策或ハ根本施設等ニ對シマシテ種々考ヘテ居リ、又實行シツツアル次第ハ、奥平伯爵ニ向テ先日御答シタ通リデアリマス、今日ハ茲ニ私ノ不

用意ナ言葉ヲ使ヒマシタコトガ御質問ノ種トナツタコトヲ、吳モ遺憾ト致シマシテ、私ノ申シタ言葉ハ農產物全體ノ需要供給ノ關係カラ生産ノ過剩ト云フ意味ヲ申シタ心持デアリマシタコトヲ御諒承ヲ願ヒマス
(子爵三室戸敬光君演壇ニ登ル)
○子爵三室戸敬光君 去ル十二日私ハ日本國家ノ大本ヲ基礎ト致シマシテ幾多ノ質問ヲ各大臣ニ致シタノデアリマス、今日十二日目デアリマシタガ誠ニ立派ナル御答得スルノ大本ニテ、私ハ瑞穂國デヤウナ諾デアリマスガ故ニ、只今ノ御答辯ノ通り、其方面ニ向テモ力ヲ盡サレルコトヲ強調シ、今日ハ農村ニ關スル國策ヲ樹立スルノ建議案サヘ本議場ニ於テ可決セラレタ

ノ確ク信ジマシテ、茲ニ喜ビノ餘リ此言ヲ再度呈シテ置ク次第デアリマス

○議長(公爵徳川家達君) 只今ノハ全然再質疑デナイト議長ハ認メマシタ

渡邊千代三郎君 坂田 貞君
金杉英五郎君 小塙八郎右衛門君
高橋源次郎君 菅澤 重雄君
森 廣三郎君 澤田 喜彦君
小林嘉平治君 本間千代吉君
瀬川彌右衛門君

○議長(公爵徳川家達君) 三室戸子爵、再度ノ御質疑デナケレバ、ドウモ發言ヲ許スノハ前例ニ無クテ宜クナイコトト存ジマス

○子爵三室戸敬光君 ドウ云フ程度デアレバ宜シイカ……

○議長(公爵徳川家達君) 質疑ノミニ願ヒマス、質疑ヲ爲サルナラバ幾ラオ長クテモ構ヒマセヌ、質疑デナケレバ發言ハ許サレマセス

○議長(公爵徳川家達君) 上ゲマシタコトハ、議長ノ御注意デアリマス、質疑ヲ爲サルナラバ幾ラオ長クテモコトハ私共ガ申ス迄モナインデアリマスガ、先頃ノ御説明デハ稍、私ガ疑ヒヲ懷クヤウナコトニナリマシタノデアリマスルガ故ニ、私ハ甚ダ多クノ質問ヲ大臣諸公ニ致シテコトハ私共ガ申ス迄モナインデアリマス

ガ、只今ノ御答辯ハ誠ニ結構デアル、誠ニ誠ニ失禮デアルト考ヘマシタノデアリマス

ガ、只今ノ御

○議長(公爵徳川家達君) 日程第十七、關稅定率法中改正法律案、衆第三號、衆議院提出、第十八、關稅定率法中改正法律案、衆第四號、衆議院提出、第一讀會

正法律案ノ特別委員ニ付託イタシマス、明二四日ハ午前十時ヨリ開會イタシマス、本議事日程ハ決定次第御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會イタシマス

午後三時三十一分散會

右本院提出案及送付候也

昭和六年三月二十日

關稅定率法中改正法律案

右本院提出案及送付候也

午後三時三十一分散會

貴族院議長公爵徳川家達殿
衆議院議長藤澤幾之輔

關稅定率法別表輸入稅表中左ノ通改正ス
第十八號ヲ左ノ如ク改ム

一八 高 粮 每百斤 ○・五〇

第十九號中「〇・三〇」ヲ「一・五〇」ニ改ム

第二十二號第四項甲中「一・八〇」ヲ「二・
六〇」ニ、乙中「三割」ヲ「六割」ニ改ム

關稅定率法中改正法律案

右本院提出案及送付候也

貴族院議事速記録第二十六號正誤

貴族院議長公爵徳川家達殿
衆議院議長藤澤幾之輔

關稅定率法別表輸入稅表中左ノ通改正ス
第五十三號中「三六・九〇」ヲ「五五・〇〇」
ニ改ム

貴族院議事速記録第三十四號正誤

第五十四號中「三九・三〇」ヲ「五五・〇〇」
ニ改ム

貴族院議事速記録第三十五號正誤

第五十五號第一項中「一三・四〇」ヲ「五
五・〇〇」ニ、第二項中「八・三〇」ヲ「二〇・
〇〇」ニ改ム

貴族院議事速記録第三十六號正誤

第二百十七號ヲ左ノ如ク改ム
○議長(公爵徳川家達君) 兩案トモ先ニ指

貴族院議事速記録第三十七號正誤

官報號外 昭和六年三月二十四日 貴族院議事速記録第三十七號 關稅定率法中改正法律案外一件 第一讀會

